

# 聖徒の道

11  
1994



末日聖徒  
イエス・キリスト  
教会



# 聖徒の道

1994年11月号



表紙——「神権とは、この世の人々が神に代わって物事を行なうために、神から授けられた権能と力です。私たちは神権の権能を適切に行使するとき、神が実際にそこにおられたらなさと思われることを行ないます。」ボイド・K・パッカー長老は「すべての長老、そしてすべての女性が知っておくべきこと——神権政体の原則に関する手引き」の中で、そう記している。(本誌 p.14参照。写真撮影/マット・ライアー)

こどものページ表紙——写真撮影/グレッグ・ダイヤモンド

## 一般

大管長会メッセージ——教会員の大いなる象徴	
大管長ハワード・W・ハンター	2
古い写真 アルマ・ヤニラ・ゴンザレス	8
感謝の心 キャロリン・ライト	10
すべての長老、そしてすべての女性が知っておくべきこと——	
神権政体の原則に関する手引き ボイド・K・パッカー	15
第3回国際美術コンテスト	
世界に広がる教会にあって福音を实践する	32
信仰の礎 ディエーン・ウォーカー	41

## 青少年

事故の後先 タイラー・ウィルキンソン	26
質疑応答	
みたまの導きと自分の思いとを区別するには、	
どうしたらよいでしょう	29
キリストの愛を知りました ジェシー・ラムズビー	48

## 定期特別記事

読者からの便り	1
家庭訪問メッセージ——特別な神権の祝福を受ける	25

## こども

モルモン経物語——しれい長かんモロナイと自ゆうのはた	2
たんけん 系図の歩み レベッカ・M・テイラー	4
おもちゃばこ	7
小さなお友だちへ——リノ・アルバレス長老	8
分かち合いの時間——へいわを布くせん教したち	
ジュディ・エドワーズ	10
パイパー兄弟のパイ アルマ・J・イエーツ作	12

本誌は、末日聖徒イエス・キリスト教会の公式刊行物です。本誌は以下の言語で出版されています。月刊——イタリア語、英語、オランダ語、サモア語、スウェーデン語、スペイン語、中国語、韓国語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、フィンランド語、フランス語、ポルトガル語、ノルウェー語。隔月刊——インドネシア語、タイ語、タヒチ語。季刊——チェコ語、ブルガリア語、ハンガリー語、アイスランド語、ロシア語。

大管長会：ハワード・W・ハンター、ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン  
 十二使徒定員会：ボイド・K・バッカー、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ジェームズ・E・ファウスト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オーグス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド  
 編集長：レックス・D・ピネガー、ジョー・J・クリステンセン  
 顧問：ウィリアム・R・ブラッドフォード、スペンサー・J・コンディー、ジョン・H・グロバー  
 教科課程管理部責任者  
 実務部長：ロナルド・L・ナイトン  
 企画・編集ディレクター：プライアン・K・ケリー  
 グラフィックスディレクター：アラン・R・ロイボーク  
 機関誌グラフィックスディレクター：M・M・カワサキ  
 国際機関誌  
 編集主幹：マービン・K・ガードナー  
 編集主幹補佐：R・バル・ジョンソン  
 編集副主幹：デビッド・ミッチェル  
 編集補佐：こどものページ・デイエーン・ウォーカー  
 工程管理：メアリーアン・マーティンデール  
 アートディレクター：スコット・バン・カンベン  
 デザイナー：シェリー・クック  
 制作：レジナルド・J・クリステンセン、ジェニファー・ダットワイラー、ジェーン・アン・ケンプ、デニス・カービー  
 予約購読スタッフ  
 購読管理ディレクター：B・レックス・ハリス  
 配送部長：クリス・クリステンセン  
 マーケティング部長：ジョイス・ハンセン、ケント・H・ソレンセン  
 聖徒の道 1994年11月号第38巻第11号  
 発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会  
 〒106東京都港区南麻布5-10-30  
 電話 03-3440-2351  
 印刷所 株式会社 リック/クロスロード  
 定価 年間予約/海外予約2,200円(送料共)  
 半年予約1,100円(送料共)  
 普通号150円、大会号350円  
 Copyright © 1994 by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints. All rights reserved. Printed in Japan. 英語版承認—1992年10月 翻訳承認—1992年10月 原題—International Magazines November 1994, Japanese, 94991300  
 ●定期購読は、「聖徒の道予約申し込み用紙」でお申し込みになるか、または現金書留が郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて管理本部経理課へご送金いただければ、直接郵送いたします。  
 ●「聖徒の道」のお申し込み先…〒106東京都港区南麻布5-10-30管理本部経理課 ☎03-3440-2351(代表) ●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部配送センター☎044-811-0417

予言者の言葉

「リアホナ」(スペイン語版)を購読し、この美しい機関誌に掲載される現代の予言者と使徒の言葉が読めるのは、なんとすばらしいことでしょうか。機関誌の出版に携わられた方に感謝します。私たちはそれによって、予言者、聖見者、啓示を受ける者から天父の導きを受けることができます。私にとって模範となる経験が語られているので、これまでもいろいろな機会に役立ちました。人生の使命をよく理解するのにも役立ち、主に近づくためのもうひとつの方法でもあります。

ボリビア、エルアルト、サテリテステキ部  
 サテリテ北ワード部  
 ホアン・ドミンゴ・タブラレス・アリアガ

絶え間ない慰め

愛読者として、私は「リアホナ」(ポルトガル語版)に喜びと満足の気持ちを表わしたいと思い、筆を執りました。記事の内容は、私がちょうど必要としているときに慰めを与えてくれます。特に、靈感あふれる大管長会メッセージに、心から感謝しています。また、ほかの国の聖徒たちの記事を読み、世界じゅうで教会が発展していることや、イエス・キリストの福音に対する<sup>あかし</sup>証を分かち合える人々がいる、ということがわかります。とてもすばらしいことだと思います。

ブラジル、リオデジャネイロ  
 カルガルデ・ロペス・バルボア

ハイチの強さの源

この手紙だけでは、どんなに大きな喜びを私が受けているか、お伝えすることができません。私は「レトワール」(フランス語版。「星」の意)の愛読者です。世界の国々の出来事を伝える記事をよく読んでいます。この機会を利用して、ハイチのセントマルク支部の会員たちからの愛をお伝えします。

毎年多くの会員が定期購読しています。私は教会員になって10年になります。会員になって以来、試練も多くありましたが、現在も活発に集っています。今は支部長に召されていますが、主に仕えることに大きな喜びを見いだしています。特に、支部のすばらしい青少年たちと接するときは、喜びを強く感じます。私にとって「レトワール」は力の源であり、霊的な支えです。また、有益なメッセージも与えてくれます。

ハイチ、ポルトープランス北地方部  
 セントマルク支部  
 ジュリアン・オズミック

模範の力

私は、この機関誌「リアホナ」(ポルトガル語版)について感じている自分の気持ちを伝えたいと、常々思っていました。実にすばらしいと思います。ほかの国々の教会員の模範によって、私は強められ、学んでいます。教会の予言者と指導者の靈感あふれる教えによって、真実の福音に対する知識、確信、証を持つことができます。家庭の夕べでは、救い主と交わした誓約を思い起こせるような記事を、利用しています。この機関誌には、世界じゅうの人々の福音に対する思いや行動をよい方向に変えてくれるメッセージが、いつも満載されています。

ブラジル、フォルタレザステキ部  
 アルボラダ支部  
 オルガ・エステラ・ジュスティエー・デ・フレイタス・パディーリャ

編集室から

愛読者の皆さんにとっても感謝しています。皆さんの手紙、記事、物語などをお寄せください。どの国の言葉でもけっこうです。投稿の際は、住所、氏名、ステキ部/伝道部/地方部、ワード部/支部名を明記してください。あて先は下記のとおりです。  
 International Magazines  
 50 East North Temple Street  
 Salt Lake City, Utah 84150, U.S.A.

The Seto No Michi (ISSN 0385-7670) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, Utah 84150. Second-class postage paid at Salt Lake City, UT 84150. Subscription price \$14.00 a year. \$1.50 per single copy. Thirty days' notice required for change of address. When ordering a change, include address label from a recent issue; changes cannot be made unless both the old address and the new are included. Send U.S.A. and Canadian subscriptions and queries to Church Magazines, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, Utah 84150, U.S.A. Subscription information telephone number 801-240-2947.

POSTMASTER: Send address changes to Seto No Michi at 50 East North Temple Street, Salt Lake City, Utah 84150, U.S.A.







## 教会員の 大なる象徴

大管長

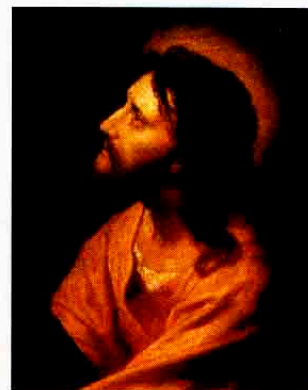
ハワード・W・ハンター

**私**はこの神聖な職への召しを受けた時、すべての教会員のかたがたに、  
主の宮居を、教会員であることの崇高な象徴とし、最も聖なる誓約を  
交わす至高の場所として確立するようお勧めいたしました。

私は神殿のことを思うとき、次の言葉について考えます。「神殿は神の王  
国についての深遠な真理が明らかにされる教えの場である。また神殿は、心  
を霊に属ける事柄に向け、ひととき世の煩いから離れられる、安らぎの場  
である。私たちは神殿で神の律法に従うという誓約を交わし、いかなるときも  
従順であることを条件として、永遠にわたる約束を受けられるのである。」

(「神権とあなた」1966年度メルキゼデク神権者学習資料, p.293)

私たちへの啓示の中で、神殿は教会員の偉大な象徴であると説かれたのは  
主ご自身です。神殿建設の準備をしていたカートランドの聖徒たちに、主は、  
予言者ジョセフ・スミスを通して勧告を与えられました。その中に挙げられ  
ている態度や行動について考えてみましょう。この勧告は今の私たちにも当  
てはまります。



神殿は麗しい場所であり、啓  
示を授かる場所であり、平安  
の宿る場所です。そこは主の  
宮居であり、聖きを主に捧げ  
る場所です。同時に、私たち  
自身にとっても聖なる場所  
でなければなりません。



「汝ら組織して必要なる物をことごとく調べよ。而して、祈りの家、断食の家、信仰の家、学問の家、栄光の家、秩序の家、神の家なる一つの家を建つべし。」(教義と聖約88：119) これらの態度や行動は、私たちが「こうなりたい」と望み求めている姿勢と一致しているでしょうか。

この末日にイエス・キリストの福音が回復される以前の長い背教の時代、新旧両世界のどちらにも、神殿が建設されたことを示す記録はありません。神殿の儀式に不可欠の神権は地上に存在していませんでした。福音の回復の後、主の予言者を通して、神の戒めにより再び神殿が建てられました。その予言者はまさしく神殿の建設、末日聖徒イエス・キリスト教会の確立のために選ばれた人物でした。

十二使徒定員会のブルース・R・マッコンキー長老は次のように話しています。

「靈感によって神殿が建てられ、正しく用いられていることは、主のみ業の神聖さを証する偉大な証拠のひとつである。……神殿があり、儀式を執行する人々のうえに啓示のみたまが注がれているなら、そこには主の民がいる。もしそれらの者が存在しないなら、王国と天の真理は存在しない。」(「モルモン教義」p.781)

神殿は主と神権の至高の儀式を受ける人々が、最も親しく交わる神聖な場所です。神殿は地のものと天のものがひとつになる所です。パウロはエペソの聖徒たちにあてた手紙の中で、私たちが生きているこの時代について、すなわち地のものと天のものがキリストにあってすべてひとつに集められる時代について、非常に大切なことを述べています。

「御旨の奥義を……わたしたちに示して下さったのである。

それは、時の満ちるに及んで実現されるご計画にほかならない。それによって、神は天にあるもの地にあるものを、ことごとく、キリストにあって一つに帰せしめようとされたのである。」(エペソ1：9-10)

すべての被造物が最後にキリストにあってひとつに集められるという教えは、パウロの手紙の重要なテーマです。地にあるものはやがて天にあるものとひとつになります。神の偉大な家族は、福音の救いの儀式を通してや

がてひとつになるのです。神殿は、死者のための身代わりの儀式と生者のための儀式を執行するためにあります。

神殿参入が私たちの生活にもたらす祝福について、十二使徒定員会のジョン・A・ウィットソー長老は次のように話しています。

「神殿の儀式は……霊的な知識と力を生きたものとするすばらしい機会を与えてくれます。……聖なる神殿では力強い永遠のビジョンが明らかにされます。私たちは無窮の時の始めから終わりまでを目の前にすることができます。永遠の生命というドラマが繰り広げられるのです。さらにまた、宇宙の諸物の中における自分の位置、神の目的の中での自分の位置をより明確に理解していきます。そして、自分のいるべき所にさらにしっかりと踏みとどまり、物事の価値を見極める力を増し加え、人生における数々の日常的責任を適切に整理することができるようになります。それによって、ささいなことで落胆したり、神から与えられたもっと偉大な事柄についてのビジョンを見失ったりすることがなくなります。」(「大会報告」1922年4月、pp.97-98)

神殿に関して主から授けられたいくつかの約束について考えてみましょう。そして、これらの約束に伴う祝福を受けるためにはどのような生活をすべきかについて考えてみましょう。

「而して、わが民主の名によりてわれに一つの家を建て、これを汚さざらんため穢れたるものをその中に入るを許さずば、わが栄光その家の上に留まらん。然り而して、その中にわれ入り来る故にわれその中に在るべし。されば、この家に入り来るすべての心清き者は神を見ん。

されど、もしわが家汚さるる時はわれその中に入り来らじ、さればわが栄光その家にあらざらん。そは汚れたる神殿には、われ入るを欲せざればなり。

さて見よ、もしシオンにしてこれらのことを行わば、シオンは栄え、振り、大いに栄光に充ち、偉大となり、且つ大いに恐るべきものとならん。

而して、世の諸々の国民はシオンを崇めて言わん。誠にシオンは、われらの神の市なり。誠にシオンはたおることを得ず、またその場所より移すことも得ず、そは





神殿が近くにないために、すぐにあるいは頻繁に参入できないとしても、すべての成人会員がふさわしい生活を、有効な神殿推薦状の発行を受けるように願っています。神殿を愛する民となりましょう。

神そこに在し、主の御手そこにあればなり。

また主、シオンの救いとなりシオンの高きやぐらとなると、その威勢の力によりて誓をなしたまいたればなり、と。  
「故に、誠に主かくの如く言う。シオンよ喜べ。それはこれこそシオン、すなわち『心の清き者』なればなり。この故にシオンよ喜べ。一方、すべて悪しき者は悲しまん。」(教義と聖約97：15-21)

主が私たち末日聖徒に与えてくださった祝福は実にすばらしいものです。すばらしい象徴ではないでしょうか。私たちは個人、家族、一個の民として、主から「心清き者」との覚えをいただくことができます。

カートランド神殿献堂のすばらしい祈りの中で語られた荘厳な教えについて深く考えてください。予言者ジョセフ・スミスは、この祈りを啓示を通して与えられたと述べています。そしてこの祈りは今もなお、個人、家族、一個の民として、私たちのうえに成就し続けています。神殿において行使する神権を、主より授けられているからです。

予言者ジョセフ・スミスは次のように嘆願しました。「さて聖なる父よ、願わくは神の民なるわれらを御恵みをもって助けたまひ、……われら父の御前に、父がわれら

に与えたまいし啓示の中にてその民なるわれらに与えたまいし約束の確に成就さるるに適しき者たらしめたもうよう助けたまえ。

かくて父の栄光その民の上にあ〔ら〕んことを。

聖なる父よ、願わくは父の僕たちこの宮居を出て行くに父の権能を身に甲い、かくて父の御名彼らの上であり、父の栄光彼らの身边にあり、父の天使たちをして彼らを守らしめたまえ。

願わくは、彼らをして此所より地の極まで、真理をもていと大なる栄光の音ずれを携え行かしめ、以て彼らをしてこれが誠に父の御業なることを覚らしめ、また末の世に関し予言者の口を籍りて言いたまいしことを成就するために父が御手を伸したもうことを覚らしめたまえ。

……

願わくは、……シオンに他のステーキ部を設けたまえ。かくて汝の民の集合を大なる力と威風とをもて円滑に運び、以て汝の働きを正しきに適いて早くなさしめたまえ。……

世のいや極までも逐い払われたるすべてのイスラエルの家の残れる者たちをして、真理を覚り、メシヤを信じ、圧制を免れて、汝の御前に悦ぶ者とならしめたまえ。……

主よ、汝のすべての教会員を、そのすべての家族と直接縁故ある者と、すべてその病める者と、苦しめる者と、またすべて世の貧しき者柔和なる者たちと共に憶えたまい、以て汝が手を用いずして建てたまいし王国が大なる山となりて全地を充たさんことを。……

願わくは、死者のためにラツパの鳴り響かん時、われらを雲の中に引き揚げて主にまみえしめ、かくして主と共にとこしえに居らしめたまえ。」(教義と聖約109：10-12, 22-23, 59, 67, 72, 75)

このように胸躍るすばらしい約束を受けた民がいるでしょうか。主がその弟子たちに、ご自身の示された模範と神殿に心に向けるよう望んでおいでになることには何の不思議もありません。主が神殿において「われは、この宮居にありて愛憐をもてわが民に姿を現わすべし」(教義と聖約110：7)と言われたのも、驚くには当たらないことです。



確かに、主は聖徒が神殿を念頭に置いて行動する民となるように望んでおられます。私も、神殿に参入するふさわしさをすべての教会員が身につけるよう、心から願っています。また、神殿が近くにならないために、すぐにあるいは頻繁に参入できないとしても、すべての成人会員がふさわしい生活をし、有効な神殿推薦状の発行を受け、所持できるように願っています。

神殿に参入し、神殿を愛する民となりましょう。時間的、経済的、個人的な事情が許すかぎり、頻繁に、速やかに神殿に行きましょう。それも亡き親族のためだけでなく、神殿での礼拝に伴う祝福を自分自身が受けるために、また奉獻された壁の内側で授けられる聖めと安らぎを受けるために参入しましょう。神殿は麗しい場所であり、啓示を授かる場所であり、平安の宿る場所です。そこは主の宮居であり、聖きを主に捧げる場所です。同時に、私たち自身にとっても聖なる場所であればなりません。

若人がふさわしい状態で神殿へ行き、生前バプテスマを受ける機会にあずからなかった人々のために身代わりの儀式を受けることを、主はお喜びになります。主は私たちが神殿へ行き、みずから主と誓約を交わし、夫婦や親子としての結び固めを受けることを喜んでくださいます。主は私たちがふさわしさを備えて神殿に参入し、今は亡き人々のためにこれらの救いの儀式を受けることをお喜びになります。すでに世を去った人々の多くは自分たちのためにこれらの儀式が行なわれるのを首を長くして待っているのです。

しかし神殿をほんとうに私たちの象徴とするためには、そうしたいという望みを持たなければなりません。また神殿参入にふさわしい生活をし、主の戒めに従わなければなりません。自分の生活を主に倣ったものとし、主の教えと模範を至高の模範とするなら、神殿に参入するふさわしさを身につけ、日々の歩みを首尾一貫した忠実なものにすることを、そう困難に思わなくなるでしょう。なぜなら、行ないにおいても信仰においても、神聖な唯一の標準に専心するようになるからです。家庭にいてもあるいは街の中にも、また学校にいても、学校を終えてから長くたっていても、まったくひとりで行動して

個人的な事情が許すかぎり、頻繁に、速やかに神殿に行きましょう。それも亡き親族のためだけでなく、奉獻された壁の内側で授けられる聖めと安らぎを受けるために参入しましょう。

いても、多くの人々と一緒に行動していても、状況にかかわらず、私たちの進むべき道、私たちの従うべき標準が明らかになるでしょう。

大切なのは、原則に従い、信仰によって高潔で忠実な生き方をする力です。個人の生活、家庭生活、また人と出会い影響を与えるあらゆる場において、真の原則に献身すること、このような献身こそ、神が究極的に何より私たちに求めておられるものなのです。それには、神の戒めが示す真実の原則に対し、心から固く決意する必要があります。そして、その決意を常に心に留めておかなければなりません。主の原則に忠実に従うなら、私たちはいつでも神殿にふさわしい者となり、主と聖なる神殿は、私たちが主の弟子であることの大きいなる象徴となるでしょう。□

### ホームテイナーへの提案

1. 神殿は、神の律法に従うという誓約を交わし、いかなるときも従順であることを条件として、永遠にわたる約束を授けられる場である。また、すでにこの世を去った人々のために、代理の儀式を執り行なう場でもある。

2. 予言者ジョセフ・スミスに与えられた啓示の中で、主は神殿を、教会員であることの崇高な象徴とされた。

3. 主は聖徒が神殿を念頭において行動する民となるように望んでおられる。

4. ハンター大管長は、神殿に参入するふさわしさをすべての教会員が身につけるよう、また、神殿が近くになかったとしても、すべての成人会員がふさわしい生活をし、有効な神殿推薦状の発行を受けるよう勧めている。







# 古い写真

アルマ・ヤニラ・ゴンザレス

**私**の姉エステラ・トレスは2番目の子供を身ごもっていた時に、血圧が高いのに加えて糖尿病と毒血症を併発し、死の危険に直面しました。姉はエルサルバドル生まれでしたが、当時はソルトレークシティに住んでいて、そこのある病院に入院しました。病状は快復に向かったものの、最初の数日、彼女はふさぎ込んでいました。親しい人が近くにいなかったため、寂しく、憂うつな気持ちだったのです。ある日の朝、ひとりの親切な看護婦が、姉の言葉になまりがあるのに気づいて、どこの国の出身か尋ねました。

姉は「エルサルバドルです」と答えました。

するとその看護婦は「まあ、私は35年前にエルサルバドルで宣教師として働いたことがあるのよ」と答えました。

そこで姉は「エルサルバドルで会った人の名前や場所を覚えていますか」と聞きました。「もしかしたら、私の祖母の名前を知ってるかもしれないわ。アマング・エルネスティナっていうんですけど。」

「名前はなかなか思い出せないけど。私が知っているある教会員の古い写真を持っているわ。明日、持って来てみるわ。」

その看護婦が持って来てくれた写真を見て、姉は喜びました。そこに写っていたのはまさしく私たちの祖母の姿だったのです。祖母は小柄でかわいい顔立ちをして写真の中に収まっていました。長い髪をくしで巻き上げて、当時エルサルバドルの小さな町ではやっていた髪形をしていました。

合衆国から来たふたりの姉妹宣教師が、ある日私たちの祖母の家を訪ねて、1冊のモルモン経を渡しました。ふたりの宣教師は、彼女は教会に関心がないと思いました。ただうなずいて、あっさりした返事しかしなかったからです。しかし次の日にもう一度訪問してみると、祖母はすでにモルモン経を読み始めていて、どんな質問にも答えられるほどになっていました。それから数日して、祖母はバプテスマを受け、エルサルバドルの初期の改宗者のひとりとなりました。そして生涯、忠実な信仰生活を送りました。

ほうきの柄でつえを作ったこと、また祖母の手作りチョコレートを食べさせてもらったこと、手を取り合っ  
て日曜日に教会へ通ったことなど、私と姉の少女時代は、祖母と一緒に過ごした懐かしい思い出でいっぱいです。

祖母は詩や賛美歌を作ったりもしていました。そして什分の一の律法への従順という点では、ほんとうにすばらしい模範を示してくれました。彼女は花を栽培して、市場で売っていましたが、売り上げがあると、主への捧げ物の分を小さな財布の中に入れておくのが常でした。彼女はとても霊的な人で、家族のすべてに福音を教えました。ある日、父がそんな祖母に逆らったことがあったそうです。その時祖母は父に、「いつかおまえも、説教壇で自分の証をするようになるわ」と言いました。

父は「絶対そんなことにはならないよ」と答えました。しかし結局、後になって父も母も、また私たち子供も、エルサルバドル、ニカラグア、コスタリカ、ウルグアイ、スペインなど世界各地で専任宣教師としての務めを果たしたのです。

祖母は内気で静かな人でしたが、献身、忍耐、無私の心という点ではすばらしい模範でした。癌で死ぬ数日前、祖母は母に小声でこう言いました。「ドアが開いているのが見えるわ。」

母は「そんなはずないでしょ。ドアは私が閉めておいたのよ」と答えました。

「私が言っているのは、そのドアじゃないの。天使たちが働いているのが見えるのよ。」数日後、母は眠ったまま息を引き取り、「ドア」の向こうの世界へ旅立ちました。

それから35年の歳月が過ぎました。あの古い写真に思いをはせるたびに、物言わぬ写真が静かにこう証しているように感じます。「おばあさんは暮のかなたから今もあなたたちを愛し、見守っていますよ。」姉は病室で祖母の写真を手にして、祖母の愛を思い出し、感動で胸がいっぱいになったそうです。私もエルサルバドルの勇敢な開拓者だった祖母を思うとき、同じ愛を心に感じます。

□









バスで、10代の女の子ふたりが私の前のシートに座っていました。片方の女の子は、気分を害しているようでした。両親に自分の欲しかったドレスを、値段が高いからという理由で買ってもらえなかったらしいのです。代わりに買ってもらった安いドレスは気に入らない、ということでした。

その女の子はこう不平を言いました。「そしたら、お母さんたら、私がお礼を言わないって怒るのよ。でも、一体何に礼を言えっていうのよ。全然わかんないわ。」

私は「恩知らずな子供もいたものね」と思って聞いていました。

それからしばらくして私は、「容るる所なきほどのあふるる恵み」(III ニーファイ24:10)という約束について思いをはせていました。私は什分の一じゅうぶんいちをきちんと納め、ほかのなすべき義務も果たしてきましたが、祝福に圧倒されるという気持ちを感じたことはありませんでした。正直なところ、自分にはほとんど感謝することがないときえ感じていたのです。

その時です。突然、バスの中での出来事が鮮やかに心に浮かびました。私もあの恩知らずの女の子と何ら変わり

なかったのです。そして、自分もいくつかの祝福を受けていたことに気づき始め、さらには数え切れないほど多くの祝福を受けていることを悟るに至りました。日常のちょっとした祝福から贖あがないという偉大な祝福まで、神は私にあふれるほどの、また驚嘆すべき祝福を授けてくださっていました。天の窓はいつも開かれていたのに、自分では気づいていなかっただけでした。私の心は、言葉では言い尽くせないほど大きな感謝の気持ちに満たされました。

心が感謝の気持ちに満たされるとき、不幸の入る余地はまったくなくなってしまふということに、その夜初めて気づきました。また、幸福は、自分の心の願いがすべてかなえられたかどうかで測れるものではないこともはっきりとわかりました。幸福は、すでに私たちが授かっている豊かな祝福に対してどれほど感謝の念を感じられるかにかかっているのです。

では、感謝の気持ちを感じられないときにはどうしたらよいのでしょうか。ほんとうは感じていないのに、感謝していると言うのは偽善ではないのでしょうか。確かにそうです。でも、感謝の気持ちをはぐくむことはできるはずで

す。感情は、自然に発生するものであり、人の努力で生み出せるものではない、と考える人がいますが、それは間違っています。人は心掛け次第で自分の感じ方を変えることができます。つまり、感謝の気持ちを感じる能力を増し加えることができるのです。このことを私は、研究と祈り、実際の経験を通して学んできました。

ではこれから、感謝の気持ちをはぐくむうえで役立つ簡単な原則をいくつか紹介しましょう。

## 感謝の気持ちをはぐくむ方法

1. 自分の授かった祝福を数え上げる。感謝の気持ちをはぐくむ第1段階は、まず自分が祝福を受けていると気づくことです。ヘンリー・B・アイリング長老は、信仰を持って自分に与えられた祝福を数え上げていると、聖霊の力によって、まったく気づかなかった祝福まで思い起こせるものだと指摘しています。『記憶と感謝』「聖徒の道」1990年1月号、p.13参照 私たちが受ける偉大な祝福の多くが、あまりにも長い間生活の一部分たまものになってしまっているために、天からの賜なのだ

# 感謝の心

キャロリン・ライト

PHOTOGRAPHY BY STEVE BUNDERSON;  
POSED BY MODELS



幸福は、自分の心の願いがすべてかなえられたかどうかで測れるものではない。幸福は、すでに私たちが授かっている豊かな祝福に対してどれほど感謝の念を感じられるかにかかっている。

ということを忘れてしまっているかもしれません。たとえば、今与えられているこの肉体が、霊の子供として前世にいた時には、熱心に求めてやまなかった祝福なのだという事を、私たちはどれくらい心に留めているでしょうか。

ある姉妹は、音楽が自分の人生をどれほど潤してくれたのか考えてみました。すると、音楽鑑賞を可能にしてくれる数々の不変の法則に対する感謝の気持ちで急に胸がいっぱいになりました。それと同時に、録音技術に対しても深い感謝の念を抱きました。この技術によって、演奏の場に直接出向かなくても、音楽を楽しむことができるからです。このような特権は、ほんの数世代前までは享受できませんでした。

**2. 試練を祝福ととらえる。**病氣、社会的な混乱、自然災害、また個人的な悲劇を祝福ととらえるのはおかしいと感じる人もいます。しかし、「チャレンジと試しの期間を耐え抜いて初めて、成長できました」と人々が証するのを、皆さんはこれまで何度となく耳にしなかったでしょうか。

試練は、不従順な人だけが受けるのだと勘違いしている人もいます。しかし、謙遜で従順な人であっても苦難に遭う、ということが聖典の中にはっきりと記されています。経験は偉大な教師であり、非常に苦しい経験がとても優れた教師の役割を果たすこともあるのです。(教義と聖約122:7参照)

だからこそ私たちに、「すべてのことにつき……感謝」(エペソ5:20)するようにとの戒めが与えられているのかもしれませんが。苦痛の中にあってもたらされる祝福もありますが、「およそすべてを感謝して受くる者には栄

光を与えられん」(教義と聖約78:19)と主は約束していらっしゃいます。

**3. たとえどんなに小さなことでも、感謝する気持ちを大切に育てていく。**感謝の気持ちを育てるのは、信仰の種が生長できるよう心を配ることによく似ています。もし最初に出てきた小さな芽を養い育てていくなれば、やがて成長して、美しい実を豊かに結んだ木となるでしょう。(アルマ32:27-37参照) 祝福に気づいたときには、すぐに感謝の気持ちを言葉で表わすことです。そうすれば感謝の気持ちを強めることができます。

**4. 祝福師の祝福を研究する。**私たちは、往々にして自分たちに特別に与えられた賜を見逃すことがあります。祝福師の祝福は、そのような個人的な賜を見いだし、その賜の価値を知るのに役立ちます。人には自分自身の賜を低く見て、逆にほかの人に与えられた賜をうらやむ傾向がありますが、祝福文を読むならそのような誤解をしないで済むでしょう。

**5. モーサヤ書第2章19節から25節を読む。**私はこの聖句を読むたびに、感謝の念に包まれます。わかりやすく、しかも力強い言葉で書かれたベンジャミン王の言葉は、私たちすべての人間が、自分の命を含むあらゆることについて、主に依存していることを思い出させてくれます。

**6. 自分の受けた祝福を書き留める。**自分の受けた祝福を日記に書き留めることによって、私たちは自分の心を祝福に向けることができ、後になって祝福を忘れてしまったときでも、思い出することができます。また自分以外の人もこの日記から恩恵を受けられます。スペンサー・W・キンボール大管長は

こう語りました。「日記は、恵みを数え上げるひとつの手段であり、それを子供に伝える方法である。」(「スペンサー・W・キンボールの教え」エドワード・L・キンボール編, p.349)

**7. 天父に感謝の気持ちを表わす。**ひそかに祈るときに聖霊は私たちが見過ごしにしている祝福に気づかせてくださいます。公の祈りも一人一人に啓示を与えてくれます。私はこれまで、ほかの人が祈るときに耳を澄まして聞くことの大切さを学んできました。そのような祈りは、ときとして、自分が気づいていない祝福を思い起こさせてくれます。また、私に非常に大きな影響を与えた祈りのひとつは、ほとんど祝福への感謝だけをして終わるというものでした。

**8. ほかの人に感謝の気持ちを伝える。**よく言われることですが、天父は、私たちが祝福しようとするとき、友人や両親、教会の指導者、教師といった第三者の奉仕を通じて祝福をもたらされます。主の愛を具現するこのような使いに対し感謝することで、大切なことがふたつ達成できます。ひとつはそのような人たちの親切で思いやりに満ちた奉仕の業を思い出すことができるということ、もうひとつは互いのきずなを強められるということです。

**9. 正直に什分の一を納める。**感謝の基となるのは、私たちの所有しているすべてのものが神から来ているという認識です。私たちの収入の10分の一を神にお返しするとき、この真理を確認することができます。

**10. 感謝の妨げとなることを克服する。**ときとして、何をやっても、苦しい思いや絶望感があるために、感謝



の気持ちを遠ざけてしまうことがあります。そのような場合、心にある不快な気持ちが、自分の力ではどうしようもないようなものに起因していることもあります。たとえば、うつ病と診断された人が消極的な気持ちから解放されるためには、専門医の助けが必要となるでしょう。

### 感謝の力

ジェームズ・E・タルメージ長老は、かつて次のように語りました。「神は、人類に感謝と賛美と礼拝を求められるが、それはこびへつらいを受けることで満足なさるためではない。神の子供たちに恵みをもたらすためである。」（「日曜の夕べのラジオ講話」第2版、p.486）感謝の気持ちをはぐくむことから得られる恵みは計り知れません。神に対する敬虔<sup>けいけん</sup>の念が培われ、その結果として聖霊の影響を受けやすくなります。また、すべての望みがかなえられる、いつとも知れない将来にではなく、現在のこの瞬間に喜びを見いだせるようになります。感謝する気持ちがあれば、天父の私たちに対する愛を固く信じて、試練に立ち向かうこともできます。

最後に私の好きな言葉を紹介します。感謝の気持ちを要約して、私の友人は次のように言いました。「感謝の心を持つ人には、祝福の尽きることがありません。」□



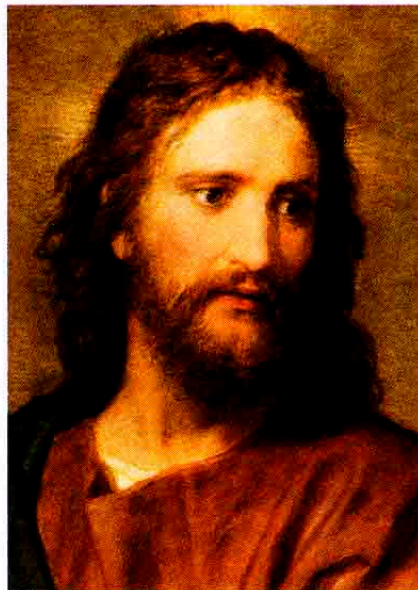


# すべての長老、 そしてすべての女性が 知っておくべきこと

## 神権政体の原則に関する手引き

十二使徒定員会会長代理  
ボイド・K・バッカー

長老は姉妹がいなければ神権のすべての祝福を受けることができないので、姉妹たちもバッカー長老のこの話から得るところがあると思われま  
す。この記事は、1992年4月の総大会における教会幹部の訓練集会で、バッカー長老が語った話を抜粋した  
ものです。



**教**会が組織されて1年足らずの時、予言者ジョセフ・スミスは次のような啓示を受けました。

「**聴**け、**汝**らわが召したる教会の長老たちよ。見よ、**わ**れ**汝**らに一つの**誠**命を与う。すなわち、**汝**らわが**言**に**適**わせんために**集**合せよ。

また、**汝**らが**信**仰の**祈**りによりて、**教**会を**治**むる方法を知り、**わ**が**前**に**す**べての**物**を**直**くせんために**わ**が**律**法を受くべし。」(教義と聖約41：2-3)

さまざまな物事が主のみ前に正しくあるように教会を治めるにはどうすればよいか、その方法を理解するためにすべての長老が知っておくべき、神権に関する事柄がいくつかあります。

これらの原則のあるものは聖典の中に、またあるもの

は手引きの中に見いだされます。また、そのどちらにも記されていないものがあり、それは教会の中にあります。伝統と言ってもいいかもしれませんが、実はそれ以上のものです。それは、過去に幹部の兄弟たちが集まり、主のみ言葉についての考えをまとめ、**信**仰の**祈**りを捧げた時に与えられた啓示なのです。

その時に、主はなすべき事柄を彼らに示されました。そして彼らは啓示によって「**教**訓に**教**訓、**規**則に**規**則」を加えて**真**実の**原**則を与えられました。(イザヤ28：13；IIニーファイ28：30；教義と聖約98：12参照)

これらの原則は、神権によってさまざまな事柄を行なう方法を明らかにしています。これらは、物事を主のみ前に正しく執り行なうために私たちがしなければならない事柄なのです。

### 神...権

神権とは、この世の人々が神に代わって物事を行なうために、神から授けられた権能と力です。(ジョセフ・スミス訳創世14：28-31参照) 私たちは、神権の権能を適切に行使するとき、神が実際にそこにおられたならな



さると思われることを行ないます。

### メルキゼデク神権すなわち大神権

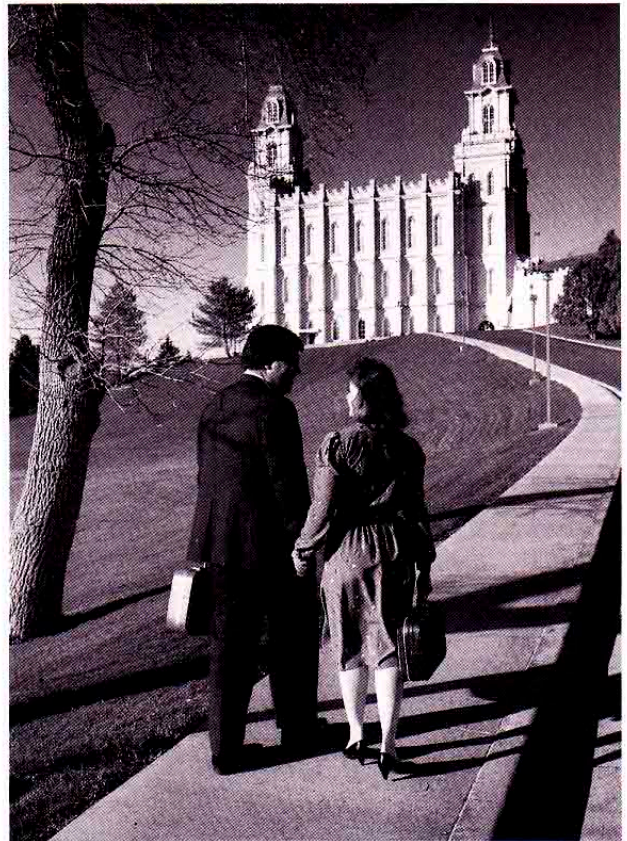
教会にはふたつの神権、すなわちメルキゼデク神権と、レビ神権を含むアロン神権があります。最初のものがメルキゼデク神権と呼ばれるのは、メルキゼデクはそれほど偉大な大祭司だったからです。「メルケゼデクの前の時代にありては、この神権は神の御子の神権の聖なる神権と称えられたり。」(教義と聖約107：1-3)

メルキゼデク神権は聖典中では、「大神権」すなわち「神の最も聖き神権に等しき」神権(教義と聖約84：18-19)、また「わが生みたる独子の神権」(教義と聖約124：123。教義と聖約76：57も参照)とも述べられています。

「されど、至高者の御名を敬い尊ぶあまりしばしば御名を繰返し唱うることを畏れて、古えの教会員はこれをメルケゼデクの神権またはメルケゼデク神権と称えたり。」(教義と聖約107：4) 私たちにはそれがなぜであるのかわかります。神権の名称が頻繁に、さまざまな集会やレッスンで語られ、また手引きや資料に印刷されます。神のみ名を含む神聖な呼称を気安く用いることは、不敬となるのです。

偉大なる大祭司メルキゼデクは、聖典の中で「サレムの王」、すなわち今日の言い方によればエルサレムの王と記されています。(創世14：18；アルマ13：17-18)「アブラハムが……十分の一を納めたのはこのメルケゼデクであった。」(アルマ13：15。創世14：20も参照)

族長の神権についても、数々の記述があります。それは前述のふたつの神権とは別の第3の神権ではありません。(教義と聖約84：6-17；107：40-57参照) 族長制度にかかわるものは何であろうとすべし、メルキゼデク神権に含まれます。「教会に於けるあらゆるその他の権能または職務はみなこの〔メルキゼデク〕神権に従属す。」(教義と聖約107：5) 族長制度はメルキゼデク神権



PHOTOGRAPH BY STEVE BUNDERSON

メルキゼデク神権は、「福音を授け、また王国の奥義の鍵、すなわち神の知識の鍵を保つものなり。」(教義と聖約84：19)

の一部であり、エンダウメントを受けたふさわしい男性は、この制度に基づいてこの世から永遠にわたって自分の子孫を管理するのです。

### アロン神権すなわち小神権

「第二の神権はアロンの神権と称えらる。この神権はアロンとその子孫に……授けられたるものなればなり。……これが小神権と称えらる……そは大神権すなわちメルケゼデク神権に従属して、外形的儀式を執り行う権能を有すればなり。」(教義と聖約107：13-14)

これは時折、準備の神権と呼ばれます。これによって人が大神権に備えるからです。

レビ神権(ヘブル7：11；教義と聖約107：6，10参照)は、アロン神権の中のひとつの制度、すなわちアロン神権の一部です。モーセとアロンはレビの部族に属していました。(出エジプト2：1-2，10；4：14参照) レビびとは、エジプトを出てから、祭司として幕屋に関する責任を与えられ、常に幕屋のいちばん近い所に宿営しました。(民数3：5-39参照) レビの制度は今日は機

能していませんが、その特権と権能は、主が将来指示を与えられる時に備えて、アロン神権の中に含まれています。

### 神権の鍵

神権には鍵があります。「鍵」という言葉には、知恵の鍵や知識の鍵など、ほかの意味もありますが、神権の鍵とは管轄内の教会の諸事を管理し、指示する権利のことです。神権の鍵はすべて末日聖徒イエス・キリスト教会にあり、この地上では当教会以外にはその鍵は存在しません。

### 使徒

使徒に聖任され、十二使徒定員会会員として支持を受けた人は皆、神権の鍵をすべて授けられます。(教義と聖約27：13；110：11-16；112：30参照)

大管長はすべての鍵をことごとく行使する権利を持つ、地上でただひとりの人です。(教義と聖約132：7参照) 大管長は十二使徒会の任命によって権能を授かります。

「大神権、すなわちメルケゼデク神権の権能と権威とは、教会員のすべての霊に属ける祝福の鍵を保つことなり。……

小神権すなわちアロン神権の権能と権威とは諸天使の導きと恵みを受くる鍵を保ち、誓約と誠命いましめとにかな適あいて外形的の儀式を執り行い、福音の字義を教え、罪の赦しを受くるための悔改くわいあらためのバプテスマを施すことなり。」(教義と聖約107：18, 20)

鍵は、ステーキ部長や定員会会長、監督のように長となる人に、その任命の時に授けられます。しかし、副の職に就く人々は鍵を受けません。

### 神権は分割できない

神権はそれに付属するいかなる職よりも大いなるものです。まずアロン神権やメルケゼデク神権を受ける人は、あんしゅ按手によってそれを授けられます。そして神権を授けられてから、神権の職に聖任されます。すべての職は神権からその権能が引き出されるのです。

神権は分割できません。長老は使徒と同じ神権を持っています。(教義と聖約20：38参照) 神権を受ける人は、そのすべてを受けるのです。しかし神権の中にはさまざまな職、すなわち権能と責任の区分があります。人は聖任あるいは任命された職の権利に応じて神権を行使できるのです。

「メルケゼデク神権は管理する権能を有し、この世のあらゆる時代に於て、教会内に於けるそのすべての職を管理する権能と権威とを有して、霊に関する諸々の事を執り行うことを得るなり。」(教義と聖約107：8)

メルケゼデク神権すなわち大神権を持っている人は、同時にアロン神権すなわち小神権の権能もすべて持っています。

### 聖任によって付与されるアロン神権の職

聖任によって付与されるアロン神権の職は次のとおりです。

執事

教師

祭司

監督はアロン神権の会長です。彼は聖任の時に授けられた鍵を持っており、副監督に責任を委任します。この3人は、ひとつの会長会である監督会を構成します。(教義と聖約107：15-17参照)





PHOTOGRAPH BY ELDON K. LINSCHOTEN

当教会においては権能が授けられる方法はふたつあります。聖任と任命がそれです。いずれの場合も、それを受ける人は、聖任あるいは任命される職にあって奉仕に伴う祝福を得ます。

### 聖任によって付与されるメルキゼデク神権の職

聖任によって付与されるメルキゼデク神権の職は次のとおりです。

長老  
大祭司  
祝福師  
七十人  
使徒

「長老」という呼称は、メルキゼデク神権の中の聖任によって付与される職を指すほかに、大神権を持っている人を指して使われることもあります。したがって、七十人と使徒も「長老」と呼ぶことができます。(教義と聖約20：38参照)

メルキゼデク神権を授けられた人は皆、神権のすべてを受けますが、それでも、ある職は別の職よりも「上」であるとか「下」であるとか言われることがよくあります。しかし上下関係よりも、メルキゼデク神権の職は、働きの分野の違いを表わしているのです。

それには権利や特権、権能の違いがあり、次の職に移るほどその範囲が広がるのです。それでたとえば、教師や祭司の職は、執事の職よりも上であると言われます。アロン神権の祭司は、教師や執事に割り当てられる職務のどんなものでも果たすことができます。たとえば、普通は、執事に割り当てられる職務である聖餐せいさんのパスを、祭司も行なうことができます。他方、執事は、祭司に割り当てられる職務である聖餐の祝福やバプテスマの執行をすることはできません。

長老はアロン神権の職に割り当てられる職務を何でも果たせますが、大祭司の職に属することは行なえません。神権政体のこれらの原則は啓示によって確立されたものであり、現在も変わりません。

### 定員会

主は時満ちたる神権時代に、神権を定員会ごとに組織するよう指示を与えられました。定員会とは、主の用向きを行ない、主のみ業を進める権能を与えられた兄弟たちの、選ばれた集まりを意味します。

定員会は兄弟愛の組織です。監督と祝福師の職は例外として、神権の職に聖任された人々は定員会に組織されます。

人は任命によって就く宗務上の任務に召されたり、その任務から解かれたりしますが、定員会における会員の地位は不変であり、一定の立場を保つものです。それは神権の職に聖任された人の持つ権利となります。そして神権を持つことは、定員会の会員になるということを含み、神聖な特権と見なされるべきことなのです。

メルキゼデク神権定員会には次のものがあります。

- 大管長会
- 十二使徒定員会
- 七十人定員会
- 大祭司定員会
- 長老定員会

アロン神権定員会には次のものがあります。

- 祭司定員会
- 教師定員会
- 執事定員会

各定員会は会長あるいは会長会によって管理されます。十二使徒定員会は、ひとりの会長、すなわち十二使徒会会長によって管理されます。(教義と聖約124：127参照)それは、祭司定員会が監督によって管理されるのと同様です。(教義と聖約107：87-88参照)

七十人定員会は7人の会長によって管理されます。(教義と聖約107：93参照) そのほかのすべての定員会は、会長と第一副会長、第二副会長から成る会長会によって管理されます。





PHOTOGRAPH BY JOHN LUKE

アロン神権は時折、準備の神権と呼ばれます。これによって人が大神権に備えるからです。監督がアロン神権を管理します。

### 神権の誓詞と誓約

神権には誓詞と誓約があります。誓約は人にかかわり、誓詞は神にかかわるものです。メルキゼデク神権は誓約によって受けるものであり、人は次の事柄を神と誓約します。すなわち、忠実であって、神権の召しを全力を尽くして遂行すること、永遠の生命の言葉を心に留めること、神の口から出る一つ一つの言葉に従って生活することです。(教義と聖約84：33, 43, 44参照)

それに対して神は、神権を受けて、その神権に関する誓約を守る者は皆「父のもてるすべて」を受けようとう永遠の誓いを宣言されるのです。(教義と聖約84：38参照)

「<sup>しか</sup>而してこは神権に属ける誓詞と誓約によりて然るなり。

この故にこの神権を受くる者は、すべてわが父のこの誓詞と誓約を受け、<sup>ゆえ</sup>而してこれをわが父は破ることも変えることも<sup>な</sup>為したもうはずなし。」(教義と聖約84：39-40)

### 聖任と任命

当教会においては権能が授けられる方法はふたつあります。「聖任」と「任命」がそれです。神権における職、すなわち執事、教師、祭司、長老、大祭司、祝福師、七十人、使徒は、必ず聖任によって与えられます。しかし長の職の鍵と神権の召しにあって働く権能は、任命によって授けられます。

たとえば、メルキゼデク神権の長老の職は聖任によって授けられる職ですが、長老定員会の会長の職は、聖任ではなく任命によって授けられる職です。いずれの場合も、それを受ける人は、聖任あるいは任命される職にあって奉仕に伴う祝福を受けます。

教会では神権組織と補助組織の双方において「任命」によって付与される職がたくさんあります。ある義務は神権に固有のものであり、人はそれを行なうのに任命を受ける必要はありません。会員の家庭を訪問するということ(ホームティーチング)はその一例です。

女性は神権に聖任されませんので、姉妹たちは、補助組織の会長の職を含むさまざまな職に任命されるときは、その職に関連した権能と責任、祝福を受けます。しかし、鍵は受けません。

### 権能に対する制限

通常、神権への聖任に関連した特権は、教会内のどこでも行使することができます。神権者は、油の聖別や病人の癒しの儀式、父親の祝福など、教会の記録に残さない儀式や祝福を執行する場合、事前の承認を得る必要はありません。

神権者は常に、鍵を持っている人の指示を受けます。そして執行する儀式が教会の記録に残されるものであれば、その儀式については適切な鍵と神権を持つ管理役員による承認を得なければなりません。

任命によって授けられる職に関連した権能には、地理的な制限など、数々の制限があります。ステーク部長として任命された人の権能は、そのステーク部の境界内に限られます。彼は隣のステーク部の会員に対してはステーク部長ではありません。また監督も、自分のワード部外の会員に対しては監督ではありません。監督に聖任される人は、同時に特定のワード部において管理するように任命されるのであって、ワード部の境界外における権能は持ちません。ワード部の監督の職から解任を受ける人は、聖任によって付与された監督の職は持ち続けるものの、再び任命されないかぎりワード部を管理する働きは行なえません。

祝福師は聖任を受けるとき、同時に会員に祝福を授けるために任命を受けます。こうして、自分のステーク部の会員と、祝福師のいないステーク部から役員の発行する推薦状を携えてやって来る人々に、祝福を授けることができます。神権政体のこれらの原則は、啓示によって定められたものです。

### 神権の職に召される通常の年齢

神権の昇進に秩序をもたらすため、神権の授与と、神権の中のほかの職への聖任には、最少年齢が定められて

います。

青少年は12歳以上で執事に聖任されるとき、アロン神権が授けられ、12人までの執事で構成される定員会に属します。(教義と聖約107:85参照) また14歳のとき、教師の職に聖任されることができ、24人までの教師で構成される定員会に属します。(教義と聖約107:86参照) また16歳のとき、祭司に聖任されることができ、48人までの祭司で構成される定員会に属します。(教義と聖約107:87参照) 18歳以上になると、メルキゼデク神権を授けられ、長老に聖任されることができ、すると96人までの長老で構成される定員会に属します。

啓示では次のように述べられています。「また長老の職を管理する長たる者の義務は、九十六人の長老を統轄しこれと共に会議を開きて誓約に従ってこれを教うべし。」(教義と聖約107:89) 大祭司には特定の年齢がなく、大祭司定員会に定数はありません。大祭司はグループに組織され、グループリーダーが置かれます。そしてステーク部長会が、ステーク部における大祭司定員会の会長会を務めます。

### 職への召し

当教会では私たちは、聖任による職や召し、あるいは任命による職や召し、いずれであろうとそれに属する権能を自分自身で引き受けることはありません。私たちは教会の職に召され、支持を受け、聖任あるいは任命を受け、権能を与えられなければなりません。信仰箇条第5条には次のようにあります。「われらは、福音を宣べ、且つその儀式を執り行うためには、啓示と、権威ある者のあんしゆ按手により、神によりて其そのにんに召されねばならぬことを信ず。」(信仰箇条第5条)

長老は皆、召しとは依頼や要請以上のもの、実に割り当て以上のものであることを知っておかなければなりません。私たちは、「私は長老定員会会長会で副会長とし



て奉仕するように頼まれました」とというような言葉をとでも頻繁に耳にしますが、「私は副会長として奉仕するように召されました」という方が適切でしょう。

私たちは自分自身で教会の職に就くのではなく、むしろ私たちが管理する人の召しにこたえるのです。教会の職に対する主のみこころに関して、よく祈って主に相談することは、管理する人の責任です。そうするときに啓示の原則が働くのです。その後、主の代理を務める管理役員がその召しを伝えます。

私たちは通常の状況の下では召しを拒みませんし、また解任が適切であると思われる状況について管理役員の注意を促す以外、解任を求めることもしません。

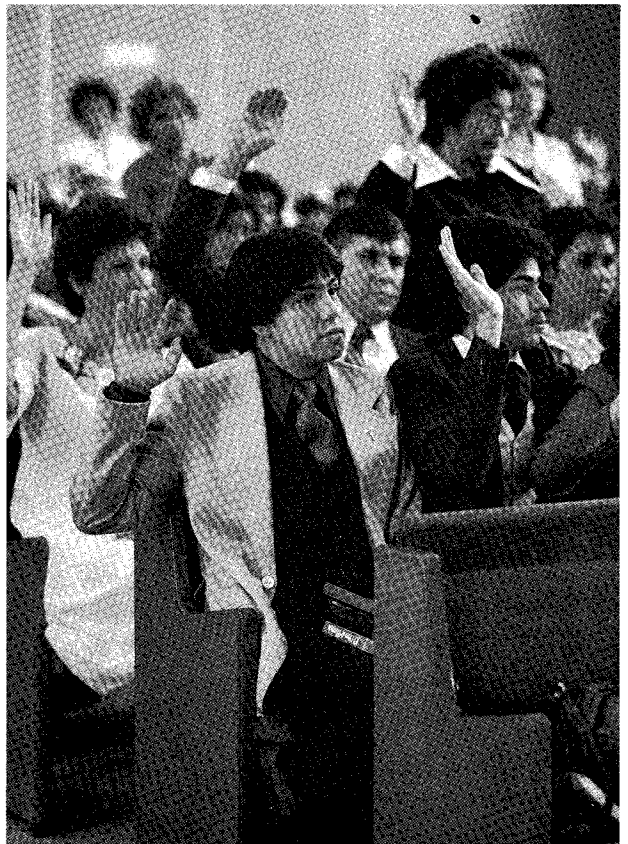
私たちが監督や会長など、管理の地位に召された人々をその職名を付けて呼ぶと、その職に威厳が加えられ、その職にある人にその人の神聖な責任を思い起こさせ、また私たちが彼らの助言に従い、彼らの召しに応じる義務のあることを思い出すのに役立ちます。

### 職についての支持

本人がふさわしさの標準に従って生活することを快く受け入れないかぎり、アロン神権やメルキゼデク神権は授けられませんし、いずれの神権の職にも聖任や任命は授けられません。その標準には、道徳的な清さじゅうぶん、自分の一納入いち、知恵の言葉を守ること、クリスチャンとして一般的な行動の標準が含まれます。

その人は適切な権能を持っている人により召され、適切な集会で支持を、すなわち支持の挙手を受け、権能を持っている人により聖任あるいは任命されなければなりません。これは民の同意、あるいは民の声と言われます。これは啓示の中で与えられた指示たれにそうものです。

「またわれなんじ汝らに告ぐ。おおよそ誰か権威たれある者より聖職あんじに按手任命され、またその者の権威たれを有てることと、教会の長たる者たちより正式の按手聖任を受けたること



アロン神権やメルキゼデク神権を受ける人は、適切な集会で支持を、すなわち支持の挙手を受けなければなりません。補助組織における職に召された会員についても、任命前に支持を得ます。

とが教会員の知る所なんびとにあらざれば、何人といえどもわが福音を宣べんために出で行くこと、または教会を創立することを許されざるべし。」(教義と聖約42:11)

これにはふたつの条件があることに留意してください。第1に私たちは、教会の長たる者から聖任を受けて権能を持っている人から、権能を受けなければなりません。次に、自分が権能を持っていることを教会内で知らなければなりません。

神権に関する支持と職への任命は、聖典で求められているように、だれが権能を持つのか教会に知らせることのできる場所で公に行なわれます。

教会における職に召された人の名前を適切な集会で提示することにより、教会はきわめて安全に守られます。(教義と聖約20:65参照)装う者や欺く者は明らかにされるでしょう。もしある人が自分は特別な召し、あるいは神権の高い位にひそかに聖任されたと主張すれば、皆さんはその主張が偽りであることを直ちに見破れるでしょう。

メルキゼデク神権に、あるいはメルキゼデク神権のある職に聖任される人の名前は、ステーキ部大会や地方部

大会で提示されます。(伝道部内の地方部はステーキ部に、ステーキ部あるいは地方部内の支部はワード部に相当します) 会衆は右手を挙げてその聖任を承認するように求められます。またその聖任に反対であれば、同じ方法でそれを表明できます。ステーキ部長会がメルキゼデク神権を管理しますので、これはステーキ部の集会で行ないません。

急を要する場合、たとえば、若い男性が伝道に出ることになり、まだ長老に聖任されていなければ、ステーキ部長会は本人の所属ワード部の聖餐会<sup>せいさん</sup>で支持を得るため名前の提示を行ないません。その後、ステーキ部の最初の集会でその聖任について追認の提示を行ないません。急を要する場合にのみ、この手順に従います。そうでなければ、秩序にかないません。

アロン神権における昇進は、ワード部の集会で支持を得ます。監督会がアロン神権を管理するからです。補助組織における職に召された会員についても、任命前に、ステーキ部あるいはワード部の適切な集会で支持を得ます。

監督は共通の判士として、メルキゼデク神権者を含むワード部の全会員を管理します。(教義と聖約107:74参照) すべての会員は監督に什分の一<sup>じゅうぶん いち</sup>を納めます。また監督から助言を求めるようにすべきです。

監督は大祭司でなければならず(教義と聖約68:19; 84:29; 107:17, 69-73参照)、同時にワード部の管理大祭司と呼ばれます。この資格により監督は、長老定員会と大祭司グループの役員が出席するワード部評議会とワード部神権役員会を管理することができます。

監督は長老や大祭司に聖任される人を推薦し、またその人のふさわしさを確認することはできますが、その承認と聖任はステーキ部長会の指示の下に行なわれます。監督は長老定員会の会長会を召すことはなく、解任することはありません。それはステーキ部長会の指示の下に行なわれます。

監督はワード部における長老の背罪を考慮するために宗紀評議会を開くことができます。そして正当であれば、その長老の正会員資格<sup>せいぐん</sup>を剥奪することができます。しかし、長老を破門してその神権を取り去ることはできません。それはステーキ部長会が管理する宗紀評議会が行ないません。メルキゼデク神権を管理するのはステーキ部長会だからです。

### 神殿推薦状

監督は神殿推薦状を受ける会員のふさわしさを判断する権能を持ち、また副監督は神殿推薦状を更新するワード部会員の面接を補佐する権能を持っています。またステーキ部長と副ステーキ部長も神殿に参入する人々と面接をします。その理由は、会員たちはそこでメルキゼデク神権の儀式を受けるからです。

### 聖任によって付与される複数の職

ひとりの人が聖任によって授けられる職を一時に複数持つことが、時折あります。たとえば、監督や祝福師は大祭司でもあります。また、ひとりの人が聖任によって授けられる職を持ちながら、ほかの職に任命されることもあります。たとえば、長老に聖任された人が、その定員会の会長やワード部伝道主任、日曜学校会長に任命されることがあるのです。

### 召された職にあつて各人に務めを果たさせる

主は私たちに、「神権者皆各々その義務を覚え。また己<sup>おの</sup>が任命せられたる務めを全く勤勉に勤むべし」(教義と聖約107:99)と勧告されました。会長会の職に召された長老は、自分が管理する人々の召しを尊ばなければなりません。会長は彼らの責任を侵すことなく、彼らが果た



すように召されている事柄を実際に遂行するよう導かなければなりません。実際に、そうするように助けるのです。

さらにまた神権者は、もっとよい助言や、もっと多くの知恵や霊性や権能を得られると考え、直属の指導者を越えてさらに上位の役員の元へ行くことは避けるようにしなければなりません。私たちが管理する人の召しと、私たちが管理する人の召しを尊ぶ方がよいのです。

### 主のみ名

私たちは当教会を呼ぶ場合、「モルモン教会」と言うよりも、その名称、すなわち末日聖徒イエス・キリスト教会という名称で呼ぶようにすべきです。「わが教会は、末の世に於て須らく末日聖徒イエス・キリスト教会と称えらるべし」と、主は啓示の中で告げておられます。(教義と聖約115：3-4)

私たちは神権を用いて儀式を行なう場合、必ず主のみ名によって執行します。(IIIニーフアイ27：1-10参照) 私たちは物事を正しい秩序に従って行なうとき、主の代理を務めるのです。そして儀式の効力に関するかぎり、あたかも主がそこにおられるかのような効力が現われるのです。主は福音を宣べ伝えるための任命を受けようとしていたある人に、次のように言われました。

「われ、わが僕なるシドニー・リグドンの手によりてわが手を汝の頭の上に按かん。さらば汝はこれによりてわが『みたま』、聖霊、すなわち王国に属ける平和なることを教うる『慰め主』を受けん。」(教義と聖約36：2)

### 例...外

神権を律する規則と原則に、時折例外が必要となります。聖任や任命に関するすべてのことが適切な秩序に従って確実に行なわれるように、心配りをしなければなりません。一般に、例外は大管長会による承認を受けます。

### 聖任と任命の記録

教会における聖任と任命については、必ず適切な記録を残します。(教義と聖約20：63-64；85：1-2；127：9参照)「見よ、わが家は秩序の家にして混乱の家にあらずと主なる神言う」(教義と聖約132：8。教義と聖約88：119；109：8も参照)とあるとおりです。

### 儀...式

メルキゼデク神権は、「福音を授け、また王国の奥義の鍵、すなわち神の知識の鍵を保つものなり。この故に、これを以て礼式を執り行う時に神の能力顕る。而して、この神権を以てする礼式と神権の権能なくしては、肉身を持てる人間に神の能力顕ることなし。そはこれなくしては、何人も神の御顔……を見て生き得る者なければなり。」(教義と聖約84：19-22)

神のみ業に常にかかわりを持つ神権は、「すべての世に神の教会に連綿として在り。而して生命の始めなく齢の終りなくあるなり。」(教義と聖約84：17)

「およそ忠実にしてわが今語れる二つの神権を得、而してその天よりの召を全力を尽して遂行する者たちは、『みたま』により聖められてその肉体再新さる。

これらの者はモーセの息子たちとなり、アロンの息子たちとなり、アブラハムの子孫となり、また教会員にして王国の民となり神の選民となる。

主は言う、またすべてこの神権を受け入る者は、われを受くるなり。

そは、わが僕らを受け入る者はわれを受くればなり。また、われを受け入る者はわが父を受くるなり。

而して、わが父を受け入る者はわが父の王国を受くるなり。この故にわが父のもてるすべては彼に与えらるべし。」(教義と聖約84：33-38) □

## 特別な神権の祝福を受ける

**救**い主がアメリカ大陸に姿を現わされた時の輝かしい記録を読むと、主が「かれらの小さい子供たちを一人一人近よせてこれに祝福を与えられるのを見た人々のひとりになりたいと思うことでしょう。(IIIネーファイ17:21) 救い主は私たちの間に目に見える形ではおられません。しかし、私たちがさまざまな神権の祝福を受けられるようにしてくださいました。これらの祝福の中には、確認や神権の聖任などの基本的な儀式もあれば、子供の命名と祝福、任命、祝福師の祝福など、励ましや導きを与える祝福もあります。さらに、私たちは導きや癒し、慰めを得るために、いつでも特別な神権の祝福を受けることができます。

### 神権の祝福を求める

私たちが直面している問題はさまざまですが、だれでも皆、神からの祝福の必要性を感じる時があるものです。そのような祝福は、ふさわしいメルキゼデク神権者を通してもたらされます。病気がちで、しばしば孤独感に襲われていたある年輩の姉妹は、神が自分に託されている使命を理解できるよう、神権者に祝福を依頼しました。またある姉妹は、学校の職員の中でただひとりの教会員でした。彼女は、職場で不和を引き起こしている問題について話し合うため、助けを必要としていました。そこで、聖霊の導きを得られるよう、ホームテ\*ャーに祝福を求め



ILLUSTRATED BY BETH WHITTAKER

ました。ある母親は、子供たちを教え導くうえで必要な助けを受けるために、新学年が始まるたびに、夫に祝福を頼みました。

●あなたはどのようなときに祝福を求めているでしょうか。

### 信仰を行使する

神権の祝福の効果は、受ける人の信仰にも左右されます。祝福を求めること自体が信仰の行使と言えます。祝福を受ける準備のために断食するなら、信仰が強まり、聖霊の導きに対する感受性も研ぎ澄まされるでしょう。しかし、最も効果的な準備は、日々神との信頼関係を築くことです。その中には、祈り、聖典の勉強、悔い改め、従順、犠牲が含まれます。

祝福を受けた後は、言われた言葉について深く考え、祈ることが大切です。

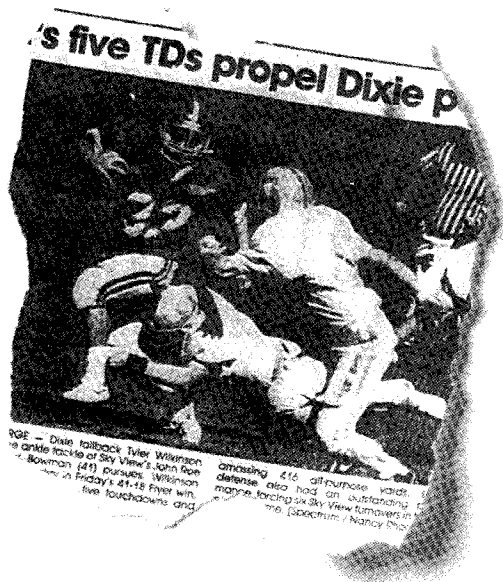
ある母親は、娘が家出をし、教会の活動から離れてしまったことで悩み苦しんでいました。そこで夫に祝福を求めたところ、娘がいつの日か自分に喜びをもたらしてくれるという約束を受けました。その後数カ月間、苦しい日々が続きましたが、その祝福を思い起こして勇気づけられ、おろおろしたりあきらめたりすることがなくなりました。彼女はこのように述べています。「私たちは心から祝福の言葉に耳を傾け、[大切な言葉や約束を]日記に書き留め、それを何度も読み返す必要があります。主がおっしゃった言葉を読み返して思い起こし、信じる必要があるのです。」必要ならいつでも祝福を求めてよいでしょう。ただし、短期間に何度も祝福を求めたり、自分の気に入る祝福を受けるまでいろいろな人から祝福を受けたりするのは避けるべきです。

神は喜んで私たちに祝福を与えてくださいます。(教義と聖約41:1参照) 予言者ジョセフ・スミスはこのように教えています。「私たちの天父は、私たちが考えている、あるいは予想している以上に広い視野を持っておいでになり、豊かな慈悲と祝福を与えてくださいます。……神の子供たちからの求めを待っていらっしゃるので。こう言っておられます。「求めよ、さらば与えられん」と。」(「予言者ジョセフ・スミスの教え」p.257)

●神権の祝福は、あなたの人生の使命を果たすうえでどのように役立ちますか。□



# 事故の後先



## タイラー・ウィルキンソン

**私**は1991年の初め、自動車事故に遭い、体の大部分がまひしてしまいました。以来、自分の今の生活を、事故以前の生活とよく比較するようになりました。以前と変わらない点もありますが、やはり多くの面で変わりました。

事故に遭う前、私は4つの基本的な面で自分の生活を完全にしようと努めていました。それを、当時大切にしていた順に挙げると、(1)肉体的な能力、(2)精神的な能力、(3)霊性、(4)情緒的な安定でした。

生活の中の、この大切な4つの礎石の優先順位は、今ではすっかり変わってしまいました。

事故に遭う前、私は18歳の運動選手

で、自分は何でも知っていると思い込んでいました。それが私の人生観でした。信仰深い家庭に育ち、自分の信仰に対しても自信を持っていましたが、霊性を最優先事項とは考えていませんでした。体力やスピード、敏捷性を高めることが、宗教や学業よりも私にとっては大切だったのです。学校へ通うのは、ただ運動する資格を確保するためだけでした。

学業成績はかなりよかったのですが、試験のための勉強や学校の宿題よりも、フットボール部や野球部の練習の方に重点を置いていました。勉強の目標に加え、宗教上の大切な目標もありましたが、それらが運動選手としての望みを越えることはありませんでした。事故によって得た私の体験は、ほんとうに大切なものが何かを深く知るうえで役立ちました。

トラックで居眠り運転をしてしまった1991年の2月16日以来、私はまったく異なった観点から人生を見直す機会を得ました。長い時間、自分の優先順位について考え、調整しました。現在でも私はスポーツを愛していますし、それが人格形成に大きな力を発揮する

と確信しています。しかし、もうそれは、私にとっていちばん大切なものではなくなっています。今、私の幸福の土台は、宗教であり、家族であり、友人であって、スポーツで勝利を収めることではありません。

私の所有物の中で最も貴いものは私の心であり、それは、かつて運動を通して自分の脚力や心肺機能を鍛えたように、鍛練する必要があります。私は大学に通い、知識を得る機会に感謝しています。私の肉体面での進歩はすっかり遅くなってしまいましたが、霊的、精神的な面では加速度的な速さで進歩しました。

知識を獲得し、霊性を増すのは終わりのない旅であることを、私は理解しています。私の新しい優先順位は、このむずかしい目標を達成するのに役立つでしょう。

ふたつのまったく異なった観点から人生を見る機会のある人は、そうないでしょう。このような体験ができたことに私は感謝しています。おかげで、自分の霊性、精神的な能力、情緒の安定、身体的な能力を、本来の優先順位に戻すことができたのですから。□











## みたまの導きと自分の思いとを 区別するには、どうしたらよいでしょう

ある問題についてずっと祈ってきましたが、答えを受けたかどうかよくわかりません。どうしたらみたまの導きと、自分の思いや願いや恐れとを識別できるでしょうか。本誌の答えは問題解決の一助として与えられたものであり、教会の教義を公式に宣言するものではありません。

### 回 答

ベッドの傍らにひざまずき、とても気にかかっていることについて祈ります。心の内を主に打ち明けて祈りを終え、答えを待ちます。さまざまな思いが頭の中を交差し、「これは靈感なのだろうか、それとも自分の想像でしかないのだろうか」と悩みます。多くの人がこのような経験をしています。

まず、自分の思いや願い、恐れなどをあまり否定的に考えないでください。問題について注意深く、率直に考えるなら、あなたの思いは決断の基礎となり、それがあって初めて主の確認が受けられるのです。あなたが戒めを守り、主の望まれるような生活を送っているのであれば、あなたの下した決定は正しいものである可能性が、大きいはずです。

願いや恐れは感情的なもので、霊的な導きと似ているために判断がむずかしくなります。正しい願いや、あって当然な恐れもあれば、自分勝手な願いや破滅的な恐れもあります。あなたの結論が何らかの感情に影響されて出たのだとすれば、それがどのような感情か識別するように努めてください。あ

なたの思いを主に打ち明けてください。そうすることによってあなたの決断はバランスの取れたものとなり、心や思いがさらにほかの可能性に向かって開くでしょう。

では、よく思い計り、祈った後に浮かんでくる、考えや思いについてはどうでしょうか。おそらくそれらは、もっとほんとうの靈感に近いものでしょう。しかし、自分自身の思いであることもあります。

実のところ、区別をつけるのは必ずしも簡単ではありません。何の技術でもそうですが、みたまの導きを識別するのに、時間と努力が必要です。それは外国語の習得に少し似ているかもしれませんが、最初のレッスンではわずかな言葉や言い回ししか理解できませんが、レッスンを重ねるごとにどんどん理解できるようになるからです。

あなたの受けた靈感がどこから来たのかを識別するひとつの方法は、モロナイ書第7章13節にある方法に従うことです。

「神から出るものはいつも人を善い行いに誘い導いて善いことをさせようとするから、すべて善い行いに人を誘い導いて善いことをさせ、神を愛させ神に事えさせようとするものは、神の

みこころがこもっている。」

あなたが受けた促しをよく注意して吟味してください。それらは聖典や教会の教えと一致していますか。それらはあなたを天父に近づけるものですか。それらはあなたに、友達や家族を助けようという気持ちを抱かせるものですか。それとも肉体的、霊的、そのほかの面で、あなたによく影響を及ぼすのでしょうか。

では、「人を善い行いに誘い導いて善いことをさせ」るふたつの事柄の、どちらかを選ぶようにしているときはどうでしょう。これについては、どちらも正しいが、あなたにとってはどちらもふさわしくない場合もあれば、どちらも正しく、あなたの好きな方を選べばよい場合もあるでしょう。また、問題が人生の中で特に重要でない場合は、神の確認を必要としないときもあります。

自分でよく思い計り、受けた導きを基に決断をし、それを主のみ前に持って行きます。もしその決定が正しければよい気持ちがするでしょうし、正しくなければ、よい気持ちを感じないでしょう。(教義と聖約9：7-9参照)

もちろん、みたまがあなたに働きかけているときにあなたがどんな気持ちになるか、きちんと説明できる人はだれもいません。提案を寄せてくださった読者の皆さんの中には、「心が燃えるような気持ち」と表現している人もいますし、「穏やかな平安な気持ち」と表現している人もいます。みたまが



どのように働きかけてくださるかは、経験を重ねてあなた自身が会得するしかありません。

また、主が必ずしもすぐに祈りにこたえてくださるわけではないことも、覚えておいてください。ときにはあなたが何年も祈り求め、思い計った末に答えを受けることもあるでしょう。あなたの成長のために、あなた自身で問題を解決するように任せられることもあります。そのようなときには、導きを求め続けながら、自分にとって最良だと思えることを選んで行なわなければなりません。

みたまの導きを受けて行動し始めたら、自分の望んだとおりの結果にならなくても、疑いを持たないでください。必ずしもみたまの導きを誤って理解したとは限らないからです。結果についてよく考えるならば、自分が当初願ったことよりも、さらにすばらしい祝福に導かれた、ということがわかるでしょう。あなたがさらにみたまに従えば、その導きを識別する能力も増し加えられます。

## 読者からの提案

みたまは私たちの心や思いに、細い、静かな声で語りかけてくださいます。いつも耳で聞けるわけではありません。私たちは導きを求めるとき、心に生じる感じと同時に、知的に納得できる考えにも注意を払う必要があります。全体として、平安と正しい確信として感じられます。

考えがよいもので、正しいことをするように導くものならば、それは神か

らのものであり、それに従うべきだと思います。(モロナイ7：13-14参照)



ブラジル、ポルテオ・クリティーバステーキ部  
ファゼンディンハワード部  
ギルソン・F・ダ・シルバ (19歳)

私はこれまで、天父に祈り求めても問題の答えが得られないと感じたことが幾度となくありました。でもほんとは、答えを受けていたのです。ただ、自分が望んだ答えではなかったのです。受け入れようとしなかっただけだったのです。私たちは自分の思いに固執せず、神のみこころを喜んで受け入れなければならないと思います。

また、自分で努力もせずに、天父から問題の解決方法が与えられることはない、という点も心に留めなければなりません。まず自分で正しい結論を探し、それを天父の所へ持って行き、その決定について祝福を与えてくださるように祈るのです。

チリ、サンチアゴ、グラン・アベニーザステーキ部  
キャピタン・アバロスワード部  
カティウースカ・グーティエレス・マリナード

私たちヤングアダルトのメンバーは、まず一人一人この質問に対する答えを考え、それから次のような意見をまとめました。

全員で一致したことは、もし私たち自身があやふやな態度で天父に祈り求

めても、明確な答えは得られないという点です。天父が祈りを聞いてくださり、私たちに最良のものを与えたいと願っておられることは知っていますが、祈りの目的について自分の考えを整理することは役立ちます。

聖典によれば、天父は私たちの祈りに対して「正しい」（「正しきを感じしむ……」）という肯定的な答えと、あるいは「正しくない」（「心は次第に鈍くなり……」）という否定的な答えを与えてくださいます。(教義と聖約9章参照)

それ以外にも、すぐに答えが得られないときもあります。これは天父が私たちのことを忘れてしまわれたわけではなく、いつ答えを与えるのがよいかを知っておられるからなのです。答えを待つ間、自由意志を使って正しいことを行なうように努力するなら、よい決断を下せるでしょう。

最後に、私たちは信仰と啓示は相関関係にあると考えます。信仰が強くなれば、個人の啓示を受ける力も伸びます。そのようにして私たちもニーフアイのように「何をせねばならぬのか、前<sup>まえ</sup>以てそれを知らずにただひとすじに『みたま』に導かれて行<sup>い</sup>くようになれるでしょう。(Iニーフアイ4：6)  
チリ、ビヤアレマナステーキ部  
ビヤアレマナワード部  
ヤングアダルト一同

私は主に答えを祈り求める前に、正しい願いを捧げられるよう努めます。それから祈りと断食によって自分を備えます。もちろん、主が与えてくださった知恵を用いて、自分自身で答えを見つける努力をします。それから初

めて主の確認を求めて祈ります。答えは聖霊から直接来るときもあれば、主が備えられた人を通して与えられることもあります。答えが主から与えられたものかどうかは判断できます。それはすべてのよいものは主から来ますし、私が導きを受けるにふさわしく忠実であるなら、主はいつも助けを与えてくださるからです。



フランス、ナン  
シースターキ部  
コルマル支部  
アンナ・ルイズ・  
フレッキンガー

あかし  
教会でお話や証をすることによって、みたまの導きを受けやすい状態に自分を備えることができます。証をすればするほど、みたまの声に敏感になれる。

オランダ、アーベルドールンステーク部  
レーワルデン支部  
セルゲイ・オーダン（16歳）

技術者として成功するには、専門の学校に通い、工学関係の適切な本や雑誌を読んだり、試験を受けたり、必要な道具を全部そろえたりしなければなりません。現場でさまざまな人と接し、熟練した技術者のアドバイスをよく聞く必要もあります。自分の能力に自信を持ち、自分以上の力を信頼することも必要になります。

私たちが、神の霊の子供として末日聖徒の自分をさらに向上させるには、知っておかなければならないことが、いくつかあります。私たちには学校、

つまり教会の組織が必要です。また、正しい本、つまり聖典も読まなければなりません。私たちよりも経験の豊富な兄弟姉妹、特に指導的な立場にある人々とよく話すのも大切です。天父を信じ、自分の信仰はこの世の圧力に負けないという自信を築かなければなりません。

私たちが、自分の学んだ事柄すべてを日々実践して生活するなら、神とさらにより関係を築くことができます。そして天父に祈るときはいつも、みたまの導きを確かに感じ、受けた思いが永遠のものか、一時的なものか識別できるようになるのです。



フィリピン、スリ  
ガオ地方部  
タフト支部  
アイリーン・  
タンダン

イエス・キリストの福音に一致した生活を送るよう努めるなら、みたまから靈感を受けることができます。毎日聖典を勉強することで、自分の思いや願いがそのままみたまからの靈感となつて、日々の生活に必要な導きが得られます。

毎日が新しい1日であり、私たちはもっと成長できるのです。

スペイン、バルセロナステーク部  
ホスピタレットワード部  
ギエルモ・カルボ

私たちは主の次のような勧告を覚えておく必要があると思います。「異邦人のように、くどくどと祈るな。彼ら

は言葉かざが多ければ、聞きいられるものと思っている。

だから彼らのまねをするな。あなたがたの父なる神は、求めない先から、あなたがたに必要なものはご存じなのである。」（マタイ6：7-8、下線付加）



ブサン  
韓国、金山ステーク部  
シンジエン  
新亭ワード部  
キム  
オージク  
金 旻植

下記の質問に対する皆さんの意見をお待ちしています。締め切りは1995年1月1日です。あて先は下記のとおりです。

#### QUESTIONS AND ANSWERS

International Magazines

50 East North Temple Street

Salt Lake City, Utah 84150 U.S.A.

氏名、年齢、住所、所属ステーク部/地方部、ワード部/支部名を明記のうえ、日本語で意見をお寄せください。手書き、ワープロ、いずれも可。できれば写真を同封してください。ただし返却はいたしません。匿名を希望する場合は、その旨を明記してください。お便りがすべて採用されるとは限りません。あらかじめご了承ください。

質問——私と友達はテレビのメロドラマを見るのがとても好きです。ところが何人かの若い女性の指導者に、そうした種類の番組を見ないようにアドバイスを受けました。テレビのメロドラマはほんとうにいけないのでしょうか。□



## 第3回国際美術コンテスト

# 世界に広がる教会にあって 福音を实践する



聖典に親しむ（上） 陶器  
愛媛県西条市 青葉太一

シオンの勇気ある母親，ヨーランド（右） 色鉛筆画  
ユタ州ソルトレークシティー シェリー・リン・ボイヤー・ドーティ

**教** 会歴史美術館の主催で、1994年度の第3回国際美術コンテストが行なわれました。このコンクールには、絵画をはじめ、木工、石工、陶磁器、金属細工、紙細工、籐細工など、さまざまな手法を用いた作品が500人を超える末日聖徒の芸術家たちから寄せられました。

世界じゅうの末日聖徒が、芸術を通して、それぞれの福音に対する信仰や決意を表現しました。プロもアマチュアも、さまざまな自国の文化を背景に「世界に広がる教会にあって福音を实践する」というコンテストの

テーマを追求したのです。

テーマに基づいて、一人一人が、家族の一致、<sup>じゅうぶん</sup> 什分の<sup>いち</sup> 一の律法、伝道活動、聖典学習、神殿での奉仕、家族歴史、永遠の家族など、福音に関する事柄を表現しました。

500点の応募作品の中から200点が選ばれ、今年の春から夏にかけて、美術館に展示されました。これらの芸術作品の多くは美術館の常設展示物として寄付金によって買い取られました。（教会の基金は使われていません）

それでは展示作品のいくつかをここにご紹介します。





© Sheri Lynn Boye, 2017







麗しきソウル神殿 (左ページ)

クリスタル

韓国, ソウル  
キムユウセン  
金裕善

神聖な儀式 (上段左)

着色レリーフ

ブラジル, ペイシンホスオ  
リンダ

アナ・マリア・ミランド・  
デ・オリベイラ

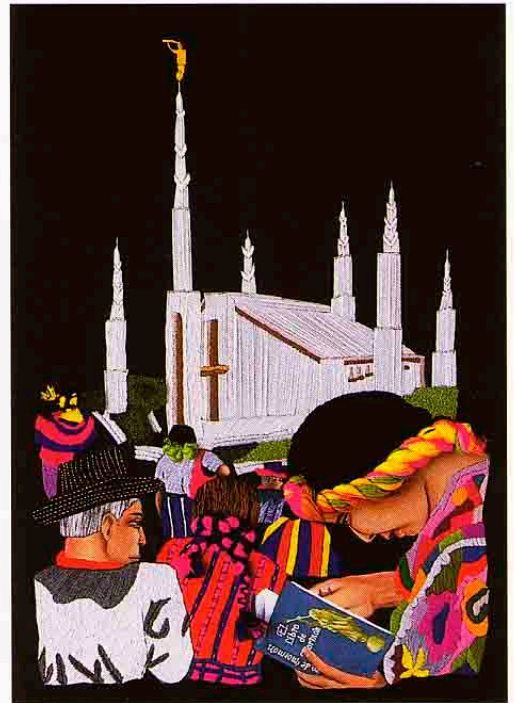
砂漠のばらのように花咲く

レーマン人 (上段右)

刺しゅうと油絵

グアテマラ, グアテマラシ  
ティー

マリス・グラディス・バリ  
エントス・デ・モンテロツソ



伝道の召し アクリル画

ユタ州, ウェストバレーシティー カルロス・マタモロス・M





日の光を受けて (左) 油絵  
フィリピン、バギオシティー  
ベルナルド・M・グレイ

若い女性の7つの信条  
——光と真理の宝 (右)

パステル画  
ワシントン州、フェアチャ  
イルド (合衆国) 空軍基地  
リンダ・W・ガイスラー

永遠に結び固められた  
幸福な6人の家族、  
オパール彫刻  
ジンバブウェ、ムターレ  
アグリッパ・ンドンゲ











Holy Bible



福音のきずな（左） 油絵  
カリフォルニア州、サンリアンドロ  
ベルナデッテ・ベルナル・ペレス

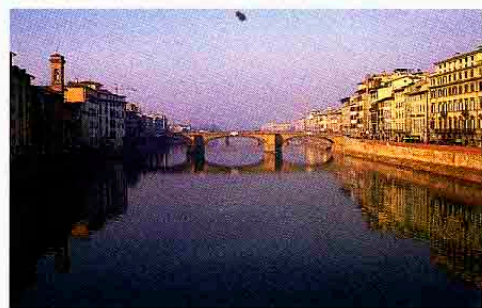
世界はひとつ（右） 油絵  
大分県中津市  
藤山栄子



子の心を先祖に向ける  
布で装飾した粘土彫刻  
ユタ州ソルトレークシティ  
マージェリー・ソレンソン・  
キャンノン□







# 信仰の礎

ディエーン・ウォーカー

**幾**世紀にもわたって、イタリア中部の美しい田園地帯は、画家や作家、音楽家や詩人たちに靈感を与え続けてきました。見渡すかぎりの丘や畑は、ぶどう畑、タイサンボク、サイプレス、そしてオリーブの木でみごとに埋め尽くされています。この地は創造主の傑作のひとつだと言っても、決して過言ではないでしょう。

年月がたち、この牧歌的な風景にも微妙な変化は起こっています。たとえば、のどかな田園地方を縫って高速道路が走るようになりました。また、畑でも動物が姿を消し、代わって機械が使われるようになりました。しかし、風景の変化以上に大きな変化があります。それは、この地方でイエス・キリストの完全な福音を受け入れた人々が経験している、日々の生活に生じた変

化です。1966年にエズラ・タフト・ペンソン長老がイタリアを福音伝道の地として再奉獻して以来、イタリアのこの地方に住むおおぜいの信仰あつい人人が、教会に加入してきています。つい最近、そうした成長を示すひとつの出来事がありました。イタリア・フィレンツェ地方部は、ローマとミラノの中間に位置し、イタリアの中部を東海岸から西海岸まで横断するように広がっていますが、その地方部が、ピサ、フィレンツェ、リミニという3つの地方部に分割されたのです。この3つの地方部には、全部で14の支部があり、1,290人の教会員がいます。

こうした開拓者の中から、数多くの信仰堅固な会員たちが生まれました。彼らの信仰は、この国の比類のない美しさに一層の花を添えています。

## 静かな模範

「おそらく、ニーファイも主のみこころを知るまでは、私のような気持ちでいたのではないのでしょうか。」イタリア・リミニ地方部のロベルト・アシオーリ地方部長は、改宗当時を思い出して、こう語っています。「私は、福音の教えを聞く以前から、それなりに正

しい生活を送っていました。しかし、私の住んでいた町は観光都市ですから、ディスコなどさまざまな娯楽施設がありました。そういう意味では、あまり霊的な場所ではありませんでした。」実際、アシオーリ兄弟は、1981年に初めて宣教師に会った時にはディスコで働いていたのです。当時、若きロベルトは失意のどん底にあって、悲しみの日々を送っていました。生まれたばかりの赤ちゃんを亡くし、妻のロレッタが、まだ入院中だったのです。

ドアをノックする音が聞こえたのは、ロベルトが家にひとりでいた時でした。「窓の外をのぞいてみると、長老たちが立っていました。その時、私の心は非常に沈んでいました。とても長老たちの話を聞けるような状態ではありませんでした。だからドアを開けませんでした。」

ところが、翌日の夕方と同じ時間に、またドアをノックする音が聞こえます。「この時は、ドアを開けて、宣教師たちを招き入れました。それから、私たちは話し始めました。私は、すぐにみたまを感じました。私にとって、宣教師たちの証を受け入れるのはそれほど大変なことではありませんでした。きっと、私にとっては、福音の教えを聞く

左——ロベルト・アシオーリ兄弟は、3年にわたってイタリア・フィレンツェ地方部の地方部長を務めた。現在は、新しく組織されたイタリア・リミニ地方部の地方部長として働いている。  
上——アルノ川。美しいフィレンツェの街を川面に映しながら流れている。





上—アシオーリ家族。ロレッタ、マテオ、ロベルト、アリス。

下—フィレンツェ支部の会員であるビットリオ・ファバレットと談笑するアシオーリ地方部長。

のに最もふさわしい時だったのでしょ  
う。」

やがて福音の勉強が進んでくると、ロベルトは、自分の気持ちを妻に打ち明けて、バプテスマを受けたいという望みを伝えようと、強く思うようになりました。しかし、妻の反応は、彼が期待していたものではありませんでした。妻は関心も示さず、夫が見つめてきた新しい宗教に不快感を持っていたのです。がっかりしたロベルトは、妻を残して、自分だけが福音を受け入れ、バプテスマを受けていいものか、悩み始めました。そして、妻のロレッタにも、自分と同じようにみたまを感じ、幸せな気持ちを味わってほしいと祈りました。そして、熟考の末、妻が自分

と同じような気持ちを味わえるようになるまで、バプテスマを延期することにしたのです。

「長老たちに、妻のことを心配していると話すと、長老たちは私に祝福を授けてくれました。その祝福には主の約束が伴っていました。長老たちはこう言ったのです。『あなたがバプテスマを受ければ、自分の信仰を主に示すこととなります。主は決してあなたをひとりにはおかれませんが、あなたは奥さんを改宗させることができるでしょう。』」

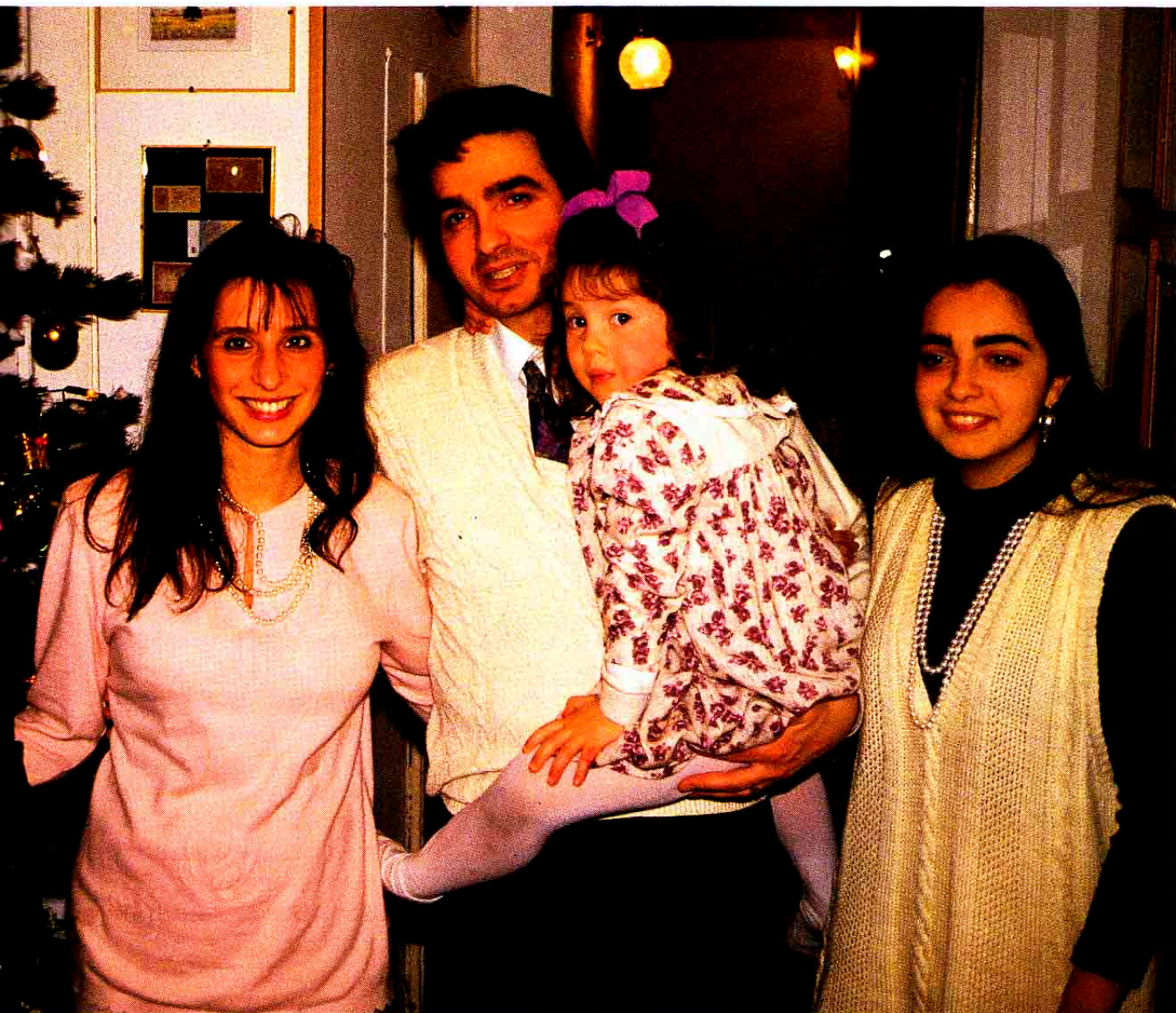
こうして、ロベルトは福音の勉強を続けました。しかし、長老たちが訪問して来ると、ロレッタは台所に引っ込んでしまい、長老たちが帰るまで出て来ませんでした。当時を思い出してロベルトはこう言っています。「このころ、妻の気持ちは完全に私から離れていました。ですから、私にとって、教会に入るべきかどうかを考えることは、ほんとうに苦痛でした。特に妻が『台所から出て来ない』状況を考えると、一層つらさが増しました。でも、長老たちが『主は決してあなたをひとりにはおかれませんが』と約束してくれた言葉を、私はいつも心にとどめていました。」

長老たちが初めてドアをノックしてから20日後に、ロベルト・アシオーリはバプテスマを受けました。こうして彼は、リミニの初期の教会員のひとりとなりました。彼は、自分が今、分岐点に立っていることを自覚していました。決断の時が来ていたのです。ディスコの仕事をどうすべきか、福音の喜びを妻と分かち合うには、どうしたらいいのか、と。結局、彼はディスコの仕事を辞め、全精力を傾けて自分の信ずる福音の教えを実践していこうと決意したのでした。



ロレッタはその様子をじっと見ていました。ロベルトは新しい仕事に就きましたが、それほど安定した仕事ではありませんでした。やがて、その仕事も辞め、自分で新しい事業を始めました。そして、日曜日になれば、どんなに肌寒い朝でも早くから目を覚まし、バイクに乗って教会に出かけて行きました。教会へ一緒に行くよう、強制することはまったくありませんでした。ロベルトはいつも聖典を勉強していました。夜になれば、ベッドの傍らにひざまずいて、ひとりで祈っていました。そういうロベルトの一挙手一投足を、ロレッタはじっと見ていました。





やがてふたりは、心を開いて語り合うようになりました。最初のうちは、教会のことや宣教師から学んでいることが話題になることはありませんでした。ただ、自分たちの人生や結婚生活について話し合ったのです。ロレッタは、当時のことを懐かしそうにこう語っています。「ロベルトにとって教会と福音の教えがとても大切なのだということが、私にも理解できました。すると、それらに無関心ではいられなくなりました。だって、私はロベルトの妻なのですから。それで、私も福音の教えについてもっと勉強しなければと思います、モルモン経を読み始めたわけ

です。」ロベルトがロレッタにバプテスマを施したのは、彼がバプテスマを受けてからわずか2カ月後のことでした。

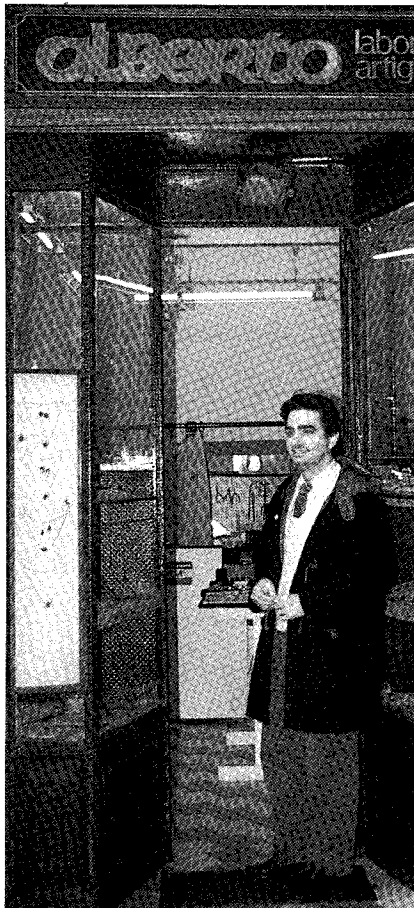
ほかにもじっと見ている人たちがいました。ロレッタの両親と一緒に食事をした時、ロベルトは出されたワインを断りました。ロレッタの父親などは、「ロベルトはどうかしてしまったのでは」と思ったそうです。しかし、ふたりの両親は、ロベルトとロレッタが新しくすばらしい生き方を受け入れていく様子をしっかり見ていました。そして、この新しい宗教が日曜日にしか着ない晴れ着のようなものではなく、毎日の生活の中で実践していく教えな

アルベルト・ソチーリは自分の家族をかけがえのない財産だと考えている。左からシルビア、マリア・テレサ、アルベルト、サラ、シモーナ

のだということに気づき始めました。また、ふたりが食事のたびに一緒に祈っている様子も、ちゃんと見ていました。

ロベルトはこう言います。「最初のうちは、ロレッタの両親にしても、私の両親にしても、偏見の壁を破るのがほんとうに大変でした。でも、今では、私たちが教会員になったことを喜んで





ソチーリ兄弟は、まだ14歳の時に、装身具を作る技術を学び始めた。彼の制作室と店は、フィレンツェの自宅に程近い所にある。

くれています。」

ほかにも、遠くから静かに見守っている人がいました。再びロベルトの話です。「私の弟が、私の行動の一部始終を見ていました。弟には、所属する教会を離れてこの教会へ来たかどうかなどという話は決してしてませんでした。ただ、関心を持ち、愛を伝えていただけです。8年前に、弟にモルモン経をプレゼントし、宣教師を紹介しました。

そして3年前、私は自分の手で弟にバプテスマを施しました。」

アシオーリ家族は、教会に加入して以来、子供にも恵まれてきました。今では3人の子供がいます。11歳のマテオ、7歳のアリーチェ、そして今年5月に生まれたばかりのトマストマスの3人です。教会もこの時期に成長しました。ロベルト・アシオーリが13年前に支部長に召された時、リミニ支部には会員は10人しかいませんでした。それが、今では90人以上が集っています。

1991年4月から1994年4月までの3年間、彼は元のフィレンツェ地方部の地方部長として働きました。その間、何時間もかけて地方部内の14の支部を訪問して回りました。また、リミニから山を越えて、地方部の事務所があるフィレンツェまで出かけることもしばしばでした。今の新しい責任を果たしながらも、アシオーリ地方部長は、新たな組織されたイタリア・リミニ地方部の聖徒たちに、模範を示し続けています。アシオーリ地方部長は、さまざまな召しを果たすために、時間と体力をこれまで随分使ってきましたが、それでも、疲れて気落ちすることはありませんでした。「私の今の責任は、計画にも実施にもとても時間がかかります。でも、責任を果たしながら私自身も成長しています。主のみ業なのですから、そう一朝一夕には成し遂げられませんよ。」

これまで、数多くの教会員が、アシオーリ夫妻の愛と献身の深さに心を動かされてきました。ほかにも数知れぬ人々が、ふたりの静かな模範に目を留め、じっと見守っていることでしょう。

#### 美しいものに囲まれて

アルベルト・ソチーリは銀細工の職

人です。ですから、美しいものをはっきりと識別し、いつもそれを大切にしています。フィレンツェにある自分の店で、彼は毎日、美しいネックレスやイヤリング、ブローチなどの装身具を作っています。でも、彼は自分の技術を自慢するようなことはありません。「私の店はとても質素なものですよ。何かの作業場みたいですよ。私はほんとうは音楽家になりたかったんです。でも、それだけのお金がありませんでした。それで、14歳の夏に働き始めて、そこで装身具を作る技術を身につけたのです。」

それから3年後、彼は自分の人生に非常な不安を感じ、何か指針になるものがほしいと思うようになりました。ちょうどそのころ、アルベルトは自分に平安と美とをもたらしてくれるような教えを耳にしました。それは「神はあなたを愛しておいでになる」という言葉でした。すでに教会員になっていた親戚しんせきのひとりが、この言葉を教えてくれたのです。彼はこの簡潔な言葉にとっても感動し、親戚の教会員と一緒にひざまずいて祈ることに同意しました。「ふたりで祈った後、私は信じられないほど平安な気持ちを味わい、この教会についてもっと勉強しなければという強い気持ちを感じました。」

アルベルトが長老たちから福音を学び始めたのは、1974年のことでした。宣教師たちは彼に、ジョセフ・スミスジョセフ・スミスの経験や知恵の言葉、人生の目的などについて教えました。「話を聞いているうちに、私はとても感動しました。宣教師たちが私に説明してくれている内容が、昔から知っていた教えのように感じられたからです。」こうしてアルベルトは、その1カ月後にバプテスマを受けました。

アルベルトの生活は20年たった今で

も、美しいものに囲まれています。長い間、彼はひとり親として、ふたりの娘を育てていました。シモーナとシルビアのふたりです。ふたりが12歳と11歳になった時、アルベルトは現在の妻のマリア・テレサと出会いました。ふたりはスイス神殿で結婚し、今ではもうふたりのかわいい娘を授かっています。6歳になるサラと1歳のデニス・グロリアです。上のふたりの娘も、今ではそれぞれ19歳と18歳になっていますが、福音について強い証を持っており、ふたりともいつか伝道に出たいと思っています。シモーナはこう語っています。「福音があるおかげで、今の私がいるのだと思います。私は毎日福音の影響を受けて生活しています。ときには大変なこともあります。私は福音を通じて強さや自由が与えられると感じています。」

シルビアは父親の芸術的な才能を受け継ぎ、現在、絵画と彫刻の勉強をしているところです。また、霊的な面でも父親の歩みに倣い、こう証しています。「私は父にほんとうに感謝しています。父のおかげでこの教会に入ることができたのですから。世の人々は、自由とは自分のしたいようにできることだと思っているようですが、福音の律法に従順に従って初めて、人は世の悪の重荷から自由になれるのです。私にとって、福音は力であり、助けであり、人生のすべてです。私にとっていちばん大切なことは、神が私を愛し、私の祈りを聞いてくださるという事実です。」

イタリアのフィレンツェは、町自体が美しい文化財として有名ですが、アルベルト・ソチーリも自分自身のかけがえのない宝物について、次のように語っています。「私は、よいものはみな、神のみもとから来ると考えています。

家族のきずなを維持するために、私たちは一緒に働き、一緒に祈り、一緒に家庭の夕べを開く必要があります。逆に、害悪となるものを家庭の中に入れてはなりません。」

奥さんのマリア・テレサもこう語っています。「福音のない人生なんて想像もできません。福音は私の人生そのものです。」

### 「変わった宗教だと思いました」

ルカ・チェカリーニ-ネリ医師がアメリカ合衆国の首都ワシントンでバーバラ・ミュラーに初めて出会ったのは、1979年のことでした。この時、彼は自分の生活が大きく変わる日が来るとは、夢にも思いませんでした。当時、ルカはアメリカの国立衛生研究所でエイズウイルスについての疫学調査に携わっており、一方、バーバラの方は合衆国のエネルギー省に勤務していました。

ふたりは共通の友人を介して初めて出会ったのですが、知り合ってから間もなく、宗教について随分深い議論をするようになりました。ある変わった宗教団体に参加した人たちの状況について語った後で、バーバラは次のように言いました。「ほんとうに世界にはいろいろ変わった宗教があるものね。」

これに答えてルカは、バーバラが最近バプテスマを受けて末日聖徒イエス・キリスト教会の会員になったことを知らずに、こう言ったのです。「ぼくは、それよりもっと変わった宗教を知ってるよ。モルモン教会のことなんだけど。」しばらく沈黙した後で、バーバラはなぜモルモンが変わった人たちだと思うのか、尋ねてみました。

「うん、モルモンというのは、ぼくたちとは違っているんだよ。皆いい人たちみたいだし、頭もいい。でも、彼ら

はすごく厳格だし、堅いんだよ。」

ふたりは歩き続けました。また長い沈黙の後、バーバラが口を開きました。「実は私、そのモルモンなの。そして、私の子供もモルモンとして育てるつもりよ。」

この後、ふたりは1回会っただけで、仕事のためにそれぞれ別々の国へ赴任してしまい、互いの連絡も途絶えてしまいました。

「しかし、彼女は私の心に強い印象を残していきました。彼女は、私がそれまでに会った人たちとはどこか違っていたんです。私は、短い時間でしたが、ふたりでモルモンについて話し合ったことが忘れられませんでした。私はイタリアのピサで生まれ育ちました。そこでも、モルモンの宣教師は見かけましたが、自分で彼らに声をかけて話をしようと思うほどの関心はありませんでした。でも、ワシントン神殿のすぐ近くに住むようになってから、その訪問者センターに立ち寄って、この『変わった』宗教についてももう少し勉強してみようと思ったのです。」

彼の話は続きます。「私は、宣教師と会って教会について勉強したいと申し出ました。その結果、長い話ですが簡単に言えば、私にとって大きな転機になったのです。私はバプテスマのチャレンジをすぐに受け入れました。」

ルカは、何度もバーバラと連絡を取ろうとしましたが、うまくいきませんでした。でも、最後にもう一度電話をかけてみました。その時のことを、ルカはこう語っています。「彼女が電話に出た時、『君をぼくのバプテスマ会に招待したいと思って電話したんだよ』と言いました。彼女はその招待に応じてくれました。そして、その2週間後、私たちは結婚する決意をしたのです。」





上——チェカリーニ-ネリ家族の子供たち。自宅で。

右——イタリアのピサに住むチェカリーニ-ネリ家族。左からベアトリス、ビットリオ、ルカ、ロベルタ、バーバラ

それからの数年間は、チェカリーニ-ネリ夫妻にとって、決して楽な日々ではありませんでした。結婚して2年後、ふたりはイタリアに定住することにしました。ふたりとも仕事を辞めていたため、ミラノへ引っ越して来た時には、お金も残り少なくなっていました。ふたりの両親の理解を得ようと努めた時や、バーバラがイタリア語を勉強した時など、苦しいこともたくさんありました。

ルカはこう述懐しています。「私の両親は私の改宗に反対していました。妻の両親も喜んではいませんでした。双方の両親とも私たちに会いに来てくれましたが、理解は得られませんでした。

た。私の両親は、私の新しい宗教についても、私がアメリカ人と結婚したことについても納得してくれませんでした。妻の両親は、私たちがイタリアへ引っ越す決心をしたことが理解できない様子でした。」

バーバラは次のように言っています。「最初の3年間はほんとうにつらかったです。でも、私たちは絶えず祈り、自分たちの生き方を貫きました。」

ルカはやがて、ミラノで副監督に召されました。そこで、父親を教会に招待しました。「父は自分の人生である日ほど、福音のことについていろいろと教えられた日はなかった、と言ってくれました。こうして父は、教会に対する私の思いをわかってくれました。あの日をきっかけに、父は私のいろいろな決定を認めてくれるようになりました。」

ルカとバーバラには、今子供が3人います。10歳のベアトリス、8歳のロベルタ、そして6歳のビットリオの3人です。バーバラの話聞いてみましょう。「主人の母も、孫が成長するのを見るにつけ、私たちへの気持ちを少しずつ和らげてくれました。母は私に、『孫たちは行儀もいいし、おとなしいし、学校の成績だって、私の知っているどの子供たちよりずっといいわよ』と言ってくれます。さらに、私たち家族には、福音の教えのおかげで『特別なきずな』があることも認めているようです。」

ルカ・チェカリーニ-ネリ家族は、再びイタリアのピサへ戻って生活することになりました。チェカリーニ-ネリ医師は、内科医として、またピサ大学医学部の教授として周囲の人たちから尊敬されています。彼は、3度支部長を務め、今も教会の召しのために多くの時間を捧<sup>ささ</sup>げています。奥さんの

バーバラ・チェカリーニ-ネリも、11年間仕事から離れていましたが、最近、ヨーロッパの宇宙計画の顧問として働き始め、忙しい毎日を送っています。一方で彼女は、献身的な主婦としても、母親としても、りっぱにその務めを果たし、さらに教会の責任においても忠実に奉仕の業に携わっています。

チェカリーニ-ネリ兄弟は、もし自分が福音の祝福にあずからなかったとしたら、自分の人生がどうなっていたか、と考えています。「自分はどうしたらよいかかわからずにいる時期もありました。一日じゅう働き、自分である程度の地位も手に入れたものの、人とかかわりがなく、寒々とした、どうにもならない気持ちに陥っていました。でもそんな時、バーバラと出会ったのです。そして、この教会に集い始め、物事がだんだんとうまくいくようになったわけです。非常に困難な時期も何年か続きましたが、天のお父様から絶えず助けをいただき、いつも豊かな祝福にあずかってきました。」

バーバラはこう言っています。「福音を知らなければ、私の生活はもっとこの世的なものになっていただろうと思います。大海に浮かぶ小舟のように、行く当てもなくさまよっていたのではないのでしょうか。私たちの生活の中に教会の教えがあるおかげで、何もかも好転しました。生活がまったく変わったのです。」

### 「あらゆることに祝福を受けて」

アシオーリ家族やソチーリ家族、チェカリーニ-ネリ家族と同様、イタリア中部に住むおおぜいのイタリアの開拓者たちも、福音のおかげで自分たちの生活に潤いや喜びがもたらされるようになったと証<sup>あかし</sup>しています。マッシ



モ・ロモノコ兄弟は、数多くの末日聖徒の気持ちを代弁して次のように言っています。

「この国は経済的にも政治的にも社会的にもさまざまな問題を抱えています。しかし、教会員でない友人たちに

比べて、私たちの家族はいろいろな問題に対し、はるかによく備えができていると思います。私たちには、イエス・キリストの福音というかけがえのない賜<sup>たまもの</sup>が与えられているからです。福音を通して、私たちは正直や義の原則

を教えられています。私たちは律法を守り、<sup>じゅうぶん いち</sup>什分の一や断食献金を納め、教会の指導者たちの勧告に従っています。そして、神の戒めを守っているかぎり、あらゆる面で祝福を受けられることを知っているのです。」□





# キリストの愛を知りました



ジェシー・ラムズビー

ILLUSTRATED BY BRAD TEARE

**教**会といっても、私の場合は普通の教会員とは少し状況が異なっています。私たち家族はアラスカの孤島に住んでいるので、教会に集うのはふた家族だけです。私たちは、毎週1時間ほど集まって、聖餐の儀式やお話、祈り、勉強会を行なっているのです。私の父が支部長を務め、集会はふたつの家庭で交互に開かれています。

当初、私は教会が好きではありませんでした。おそらく、集会に参加しても同年代の女の子がいなかったからでしょう。あるいは教会を心から理解せず、疑問を抱いていたからかもしれません。教会は真実なのだろうか、神は私たちを見守ってくださるのかしら、そして何より、死んだらどうなるのだろうか、と。

しばらくの間、モルモン経を読んでみましたが、何も得られませんでした。私が証を持たないように、サタンがあらゆる手だてを講じているかのように感じたものです。

そんなある日、私は心を取り乱して学校から帰って来ました。弁当を忘れてしまったうえに、親友と言い争いをしてしまったのです。部屋に駆け込むと、ベッドに倒

れ込んで泣きました。

ようやく涙が引いた時、机の上に置いたままになっていた聖典が目に入りました。片付けようとして取り上げた時、アンダーラインを引いた聖句が目にとまりました。それは教義と聖約第18章10節から11節でした。「汝ら、人の値は神の前に大いなることを覚えよ。

見よ、そは汝らの贖い主なる主は肉体にて死を受けたればなり。これを以て彼はすべての人々の悔い改めて彼に来らんために、すべての人々の苦を受けたり。」

この瞬間、キリストが私を愛してくださっていると、はっきりわかりました。そして、キリストについてもっと知る必要があると感じました。それまでの私は、証というのはどこからか与えられるものだと思い込んでいました。しかし、両親や祖父母、兄弟、姉妹などから証を得ようとすべきではないと、ようやくわかったのです。自分で探求し、深く思い巡らし、祈らなければなりません。信仰を持ちましょう。そうすれば私たちは、救い主の助けを受けて、自分自身の証を見いだせるでしょう。

□

# 全世界に新しい教科課程

**教** 会の新しい教材やテキストが、全世界の教会のユニットや家庭で利用できるようになった。3段階から成る教科課程は、わかりやすく、柔軟性に富み、経済的、教育的、文化的にどのような環境の下にある教会員にも利用できるように企画されている。

教会が教科課程の資料を出版する目的は、会員が福音を学び、実践できるよう助けることにある。したがって、聖典と生ける予言者の言葉が教科課程の基礎になっている。

家庭は、福音を学び実践するうえで中心となる場所である。すべての会員は、聖典と生ける予言者の言葉を家庭に備えるように勧められている。加えて下記の資料が、個人で、また家族で勉強するときに、利用することができる。

- 「(新)福音の基礎」(教会が組織されたばかりの、英語を使用していない地域用)
- 「福音の原則」(31110 300)
- 教会機関誌
- 「家族ガイドブック」(31180 300)
- 「福音の視覚資料セット」(34730 300, 34737 300)
- 聖典の絵物語 (31117 300, 31118 300, 31119 300, 31122 300)
- 「若人のために」(パンフレット [34285 300], カード [34287 300])
- 「賛美歌」(34832 300)
- 「家庭の夕べアイデア集」(31106 300)
- 「回復された真理」(33411 300)
- 「良い親になるために」(31125 300)

教会の各ユニットで教えられているカリキュラムは、そのユニットの必要と各言語で利用できる資料とに応じて決められている。

第1段階は、教会が組織されたばかりの地域で採用される。第1段階で使用する教材には、「(新)福音の基礎」

(英文)、「予言者ジョセフ・スミスの証」(パンフレット)、聖典および大管長会メッセージがある。これらは翻訳され次第、利用できる。

この段階では、12歳未満の子供たちは初等協会に集う。青少年と成人は日曜学校のクラスに出席する。兄弟と姉妹はそれぞれ神権会と女性の集会に分級し、ビジネスを処理し、義務について話し合い、自分たちにできる奉仕を含めて活動の計画を立てる。レッスンは利用できる教材を使って行なわれる。

第2段階は、教会がまだ新しいか、新しい言語への翻訳が始まったばかりの地域で採用される。第2段階の教科課程を使用する地域では、福音を教えるために分級できるだけの会員数がユニットになればならない。教会がすでにじゅうぶん確立された地域でも、地元の必要を満たすのに適切であれば、第2段階の教科課程が採用される。

この段階では、初等協会に集う3歳から11歳までの子供たちは同じテキストを使用する。ただし、生徒と教師の人数によっては、年齢別の分級も可能である。12歳以上の会員は、学習資料「福音の原則」か「福音の教義クラス教師用手引き」から聖典を学ぶ。もちろん、地元の必要や事情に応じて分級することができる。

神権定員会はすべて同じ学習資料を使用する。神権会は会員数や教室数に応じて、分級か合同のいずれかの方法で開くことができる。しかし、学習資料「アロン神権1」が刊行されれば、若い男性はこの学習資料からレッスンを受けてもよい。若い女性と扶助協会も同じ学習資料で学び、分級、合同のいずれかの方法で開くことができる。ただし、若い女性の指導者は「若い女性1」が刊行されれば、それを使用することができる。

第3段階は教会がじゅうぶん確立された地域で採用される。1歳半から3歳までの子供たちは学習資料「初等

協会1」から学ぶ。しかし可能であれば、3歳児はクラスを分級すべきである。

4歳から7歳までの子供は、全員、学習資料「初等協会2」と「初等協会3」から学ぶ。8歳から11歳までの子供たちは、学習資料「初等協会4」「初等協会5」「初等協会6」「初等協会7」を使用する。執事、教師、祭司は3年間のサイクルで「アロン神権」の1, 2, 3から学ぶ。若い女性のクラスはすべて、学習資料「若い女性」1, 2, 3から教える。メルキゼデク神権定員会と扶助協会は、いずれもすでに4つの学習ガイドを使っている。学習資料はすべて通常の学習年度に従って順次使用する。

日曜学校では12歳と13歳の青少年は全員、「歴代大管長」と「昇栄への備え」から学ぶ。14歳以上の青少年ならびに成人は、福音の原則クラスか福音の教義クラスに出席し、学習資料「福音の原則」か「福音の教義クラス教師用手引き」から聖典を学ぶ。

使用する学習資料は各歴年度ごとに定められている。

改定された教会教科課程は、教会のすべての国際地域と、アメリカならびにカナダの英語を使用しないユニットで、すでに1993年から施行されている。しかし今回の発表をもって、1995年からは、全世界の教会で共通の改定された教科課程計画が実施され、同じ学習資料が使用される予定である。

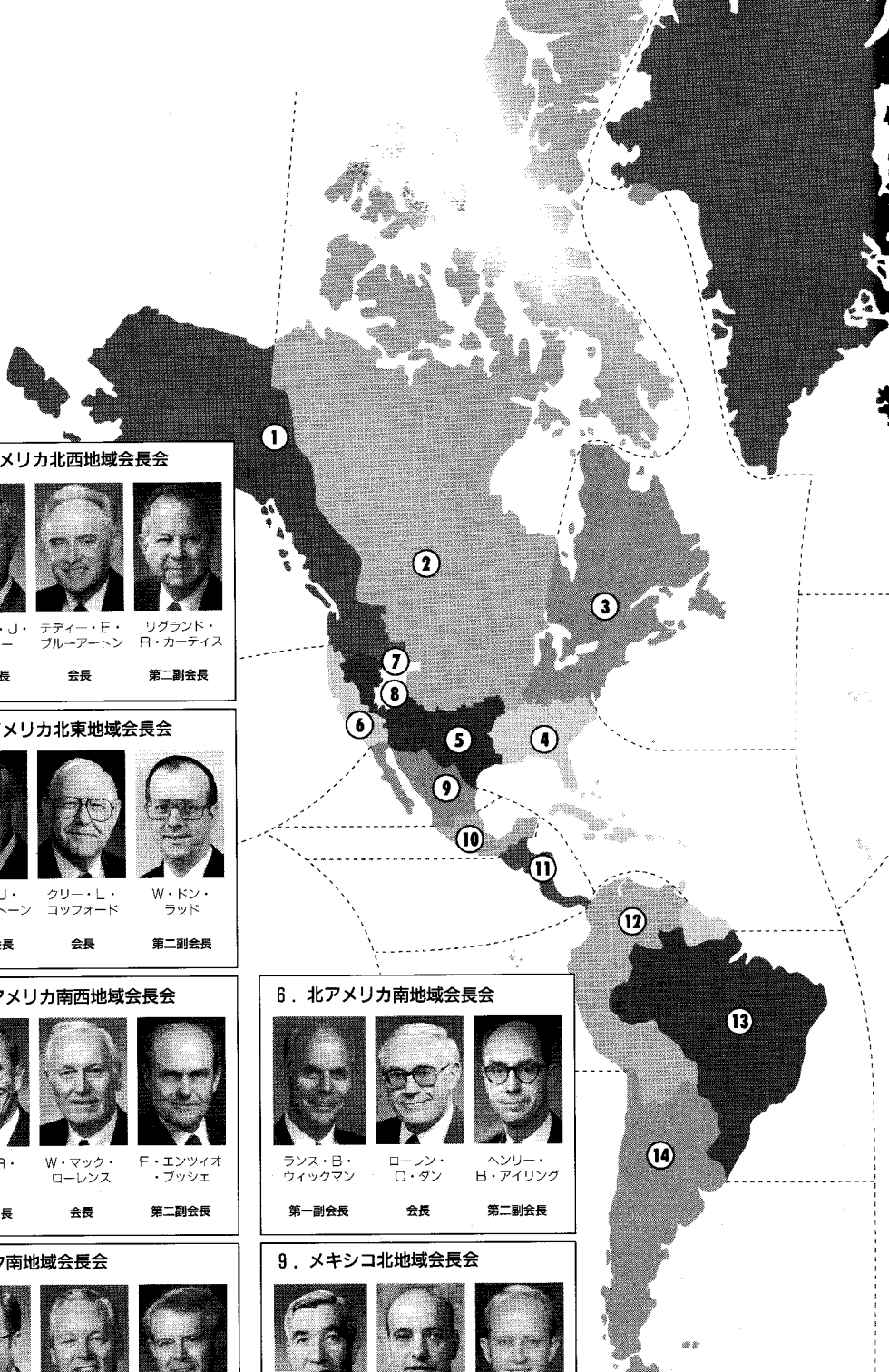
大管長会はこの新しい教科課程について知らせる指導者への手紙の中で、次のように記している。「全世界のすべての教会員に靈感が豊かに注がれ、イエス・キリストの福音をこれまで以上に効果的に教えられるように願っています。」□

(訳注——教会教科課程についての詳細は、1994年8月に各指導者に送付された「教科課程に関する神権指導者と補助組織指導者への指示」[35231 300]を参照してください)



# 再編成された 地域会長会

**地**域会長会の再編成が、大管  
長会から発表された。新た  
に組織された各地域会長会は1994  
年8月15日付で職務を開始。地域  
会長会はすべて七十人定員会会員  
で構成されている。□



## 1. 北アメリカ北西地域会長会



スベンサー・J・  
コンディー 第一副会長  
テディー・E・  
ブルーアードン 会長  
リブランド・  
R・カーティス 第二副会長

## 2. 北アメリカ中央地域会長会



ウィリアム・R・  
ブラッドフォード 第一副会長  
ジェームズ・  
M・バラモア 会長  
F・メルビン・  
ハモンド 第二副会長

## 3. 北アメリカ北東地域会長会



ボーン・J・  
フェザーストーン 第一副会長  
クリー・L・  
コッフオード 会長  
W・ドン・  
ラッド 第二副会長

## 4. 北アメリカ南東地域会長会



F・バートン・  
ハワード 第一副会長  
スチーブ・  
D・ナドール 会長  
ルロン・G・  
クレープン 第二副会長

## 5. 北アメリカ南西地域会長会



ジョン・R・  
クック 第一副会長  
W・マック・  
ローレンス 会長  
F・エンツィオ・  
ブッシュ 第二副会長

## 6. 北アメリカ南地域会長会



ランス・B・  
ウィックマン 第一副会長  
ローレン・  
C・ダン 会長  
ヘンリー・  
B・アイリング 第二副会長

## 7. ユタ北地域会長会



J・バロード・  
ウォシュバーン 第一副会長  
ジョン・E・  
ファウラー 会長  
アレクサンダー・  
B・モリソン 第二副会長

## 8. ユタ南地域会長会



ジャック・H・  
ゴズリンド 第一副会長  
アール・C・  
ティンギー 会長  
ロナルド・E・  
ボールマン 第二副会長

## 9. メキシコ北地域会長会



ホルヘ・A・  
ロハス 第一副会長  
アンヘル・  
アブレア 会長  
ジョン・M・  
マドセン 第二副会長

## 10. メキシコ南地域会長会



ゲアリー・J・  
コールマン 第一副会長  
リノ・  
アルバレス 会長  
D・トッド・  
クリスト・  
フアソン 第二副会長

## 11. 中央アメリカ北地域会長会

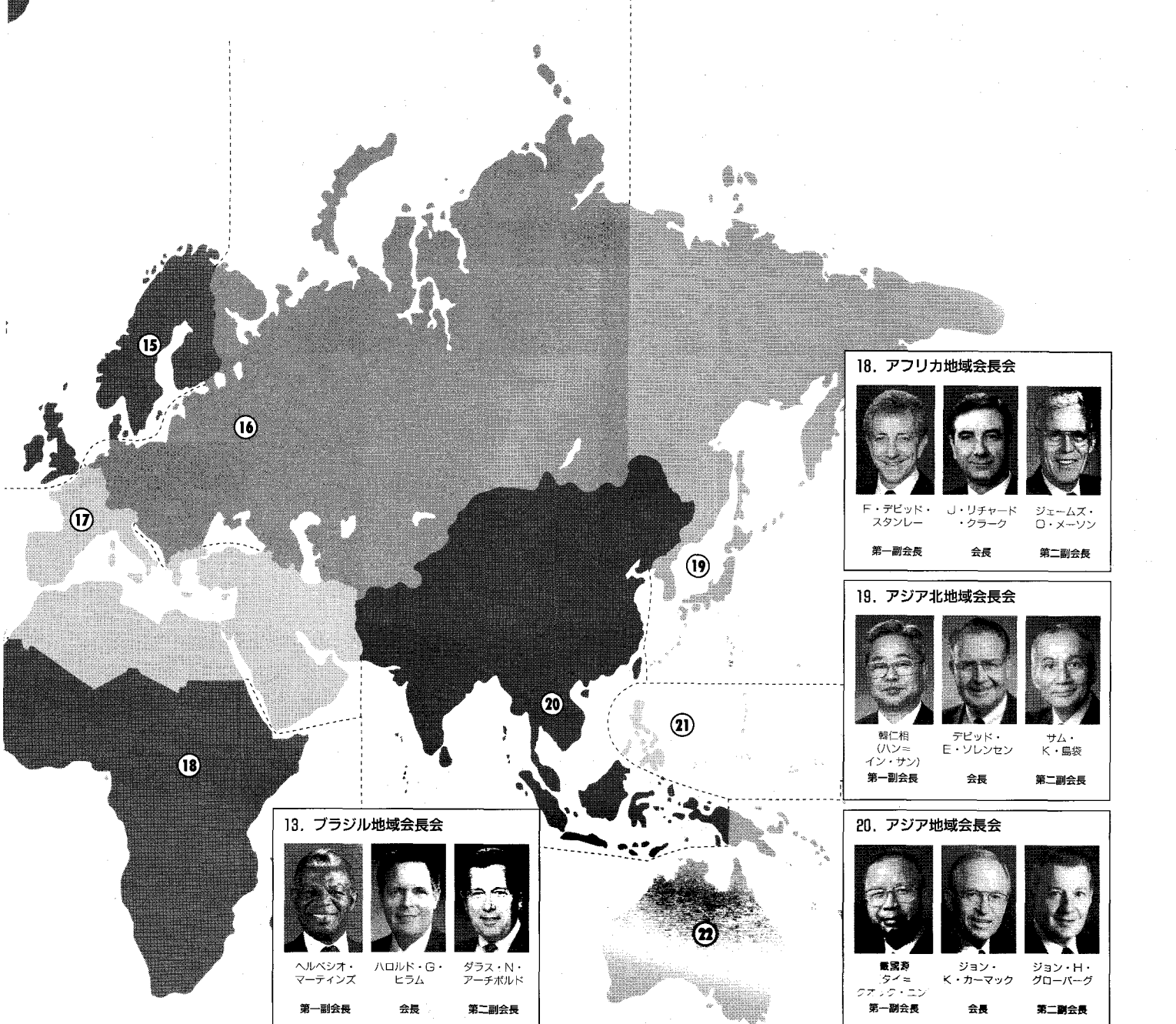


ロバート・E・  
ウエルズ 第一副会長  
カーロス・H・  
アマソー 会長  
ジョセフ・C・  
ミュレン 第二副会長

## 12. 南アメリカ北地域会長会






フリオ・E・  
ダビラ 第一副会長  
ジェイ・E・  
ジェンセン 会長  
エドワルド・  
アヤラ 第二副会長






**13. ブラジル地域会長会**

		
ヘルベシオ・マーティンズ	ハロルド・G・ヒラム	ダラス・N・アーチボルド
第一副会長	会長	第二副会長




**14. 南アメリカ南地域会長会**

		
ジョン・B・ディクソン	リン・A・ミクルセン	クラウディオ・R・M・コスタ
第一副会長	会長	第二副会長




**15. ヨーロッパ北地域会長会**

		
ヒュー・W・ビノック	ケネス・ジョンソン	グラハム・W・ドクシー
第一副会長	会長	第二副会長


**16. ヨーロッパ地域会長会**

		
ロバート・K・デルンバック	デニス・B・ノイエン	ディーター・F・ワークトドルフ
第一副会長	会長	第二副会長

**17. ヨーロッパ・地中海地域会長会**

		
ハンス・B・リンガー	ディーン・L・ラーセン	ニール・L・アンダーセン
第一副会長	会長	第二副会長



**18. アフリカ地域会長会**

		
F・デビッド・スタンレー	J・リチャード・クラーク	ジェームズ・O・メーソン
第一副会長	会長	第二副会長




**19. アジア北地域会長会**

		
韓仁相 (ハンニイン・サン)	デビッド・E・ソレンセン	サム・K・烏袋
第一副会長	会長	第二副会長




**20. アジア地域会長会**

		
韓仁相 (ハンニイン)	ジョン・K・カーマック	ジョン・H・グローバーク
第一副会長	会長	第二副会長

**21. フィリピン・ミクロネシア地域会長会**

		
アウグスト・A・リム	ベン・B・バンクス	O・マックス・コールドウェル
第一副会長	会長	第二副会長

**22. 太平洋地域会長会**

		
V・ダラス・メリル	ローウェル・D・ウッド	テュレル・A・ワルジ
第一副会長	会長	第二副会長



# クモラの丘での野外劇

すばらしい霊的な体験

クモラの丘ページェント広報担当 キット・プール

## ニューヨーク州バルマイラ発

アメリカで最も歴史のある最大規模の野外劇、「クモラの丘ページェント」は、7月8日に幕を開け、初演の夜に約9,000人の観客を集めた。毎年行なわれるこのページェントは7月8-9, 12-16日にかけて上演された。

600人に上る出演者は合衆国とカナダのほぼ全州から集まった。舞台監督を務めるジェリー・アートシンガー兄弟は「出演者として加わるだけで誇らしい」とよく語る。このページェントには特定のスターがいないからである。ただ熱心な出演者がいるばかりである。

日が暮れかかるところ、クモラの丘の静けさが破られた。長い行列の行進が始まり、出演者たちが観客の中を足早に移動して行く姿は、中世の劇をほうふつさせる。

それは色彩豊かな光景である。予言者、祭司、王が異国情緒あふれる中央アメリカ的な衣装をまとっている。行列の中には、信者、不信者、レーマン人のダンサー、剣や斧おのを振り回す戦士、邪悪な王の宮廷に集まる人々、鹿の角のかぶり物、そしてきらめく真鍮しんちゆうの盾やかぶとなどが見える。

600人全員が、フットボール場の半分の大きさもある大きなステージに到着し、観客に背を向けて立つ。そして音楽の合図とともに、一斉に客席の方を向くと、観客の中からどよめきが始まる。こうして壮大なオープニングとともに劇が進み、興奮も高まっていく。

息を飲むような映像の特殊効果を取り入れた最新式の劇場作品は、ケネディーセンターやラジオシティ・ミュージックホールなどでは当たり前のものであろう。しかしニューヨーク州北部の、隣村まで3キロ以上も離れたこの丘で、こうした作品が上演されるというのは、観客にとっては大変な



(上) リーハイと息子たちがアメリカ大陸へ航海する場面

(下) モルモンが息子モロナイに金版を手渡すシーンを演じる若い俳優たち



驚きであり、マスコミにとっても同様である。しかし壮観な特殊効果の前に、国家は神の律法に従って存続するというテーマは見失われてはいない。

ニューヨーク・タイムズ誌は作品を次のように評した。「ジョージ・ルーカス風の目を奪う技術と、セシル・B・デミルの叙事詩的な要素を持ち合わせたページェント。」

このページェントはマスコミからも大変注目された。地方新聞にはページェントの記事が頻繁に掲載され、ま

た主要刊行物の旅行欄にも取り上げられた。ボストン・グローブ誌、ニューヨーク・デーリー・ニュース誌、U.S. ニュース・アンド・ワールド・レポート誌などがその例である。ニューヨーク州シラキュースにあるNBC系列のテレビ局は、1日半かけてリハーサルの模様を収録した。あるカメラマンは、よい角度を得るために、高さ15メートルほどの照明塔に登って撮影に当たった。

フィラデルフィアで発行されているインクワイヤー誌の記者は3日間かけ



毎年上演されるクモラの丘ページェントで、救い主がアメリカ大陸を訪れる場面を再現する

てやって来た。教会に関する記事の一環として、フィラデルフィア在住の家族がページェントに参加していることを取材するためである。ニューヨーク州ロチェスターに本社を置くデモクラット・アンド・クロニクル誌は、クモラの丘ページェントに関する記事を「数々の奇跡が生んだページェント」と題して、ページェント期間中起こった大小さまざまな奇跡的な出来事を取り上げた。その際、「奇跡」という言葉を使用するかどうか話し合うために編集会議を開いた。議論を呼んだこの言葉は結局使用され、記者は実際起こった奇跡についての記事をまとめた。

クモラの丘付近の住民はこう語った。「クモラの丘ページェントの期間は決して雨が降らないんですよ。」実際に、57年間で雨が降ったのは2回だけである。デモクラット・アンド・クロニクル誌の記事で紹介された奇跡の中に、次のような話があった。「奇跡であった。1992年には、劇が古代アメリカへの船旅を演じる第4幕に差しかかると雨が降り始めたのである。ニーファイが船のマストにつながれ、特殊効果で荒れ狂うあらしに飲み込まれる場面は、折からの雨によって迫真の舞台となっ

た。ところが前もって録音されていた主のみ声が舞台のあらしを静めると、現実の雨もやんだのである。」

アートシンガー兄弟はこう語った。「ページェントのほんとうの奇跡は、復活したキリストが降りて来られる場面で、観客ばかりか舞台の出演者も味わう、大きな感動にあります。おおぜいの人が涙を流すシーンです。舞台上キリストの腕に抱かれた小さな子供は、それがほんとうの体験であるような錯覚に陥ります。私は出演者に、演技でも実際のように感じ、劇中で主を知るように勧めています。そうすることで、ページェントですばらしい霊的な体験ができるのです。」

カリフォルニア州アナハイム第10ワード部に所属する19歳のダグラス・ライト兄弟は、こう言う。「ぼくはページェントではレーマン人の最前線の戦士です。不信者の役ですが、私の心はまったく反対です。キリストの存在に対して、これほど強い証<sup>あかし</sup>を得たことはありません。出演するのは、ほんとうにすばらしい経験です。」

プロデューサーのひとり、トロイ・ホール兄弟はこう語る。「観客の中にキリストが降りて来られるシーンは、

感動的な効果を上げます。教会員でない人々も涙を流しています。そのような観客は、モルモンがキリストを信じることに、何の疑いも抱かないでしょう。」

出演者は上演後観客と歓談し、控えめな態度で自然にモルモン経を渡している。テキサス州グレイブパインワード部のアダム・ホイット兄弟はこう語っている。「私はすぐに伝道に出る予定です。ここでモルモン経を証できたのは、ほんとうにすばらしいことでした。」

ページェントはとても霊的な雰囲気<sup>雰囲気</sup>に包まれている。出演者は期間中にモルモン経を全部読むよう期待されていて、昼食時間中や待ち時間に、芝生の上に寝転びながらモルモン経を読みふけている人々の姿が見られる。

デモクラット・アンド・クロニクル誌は、次のように書いた。「モルモン・ページェントは、この聖なる場所、頂上にモロナイ像がさん然とそびえ立つ丘を舞台として披露されるが、フランスのルルドで上演されるオーバーマンマーガウ劇に匹敵すると言えるであろう。ただしこのページェントは、明らかにアメリカ的な華やかさと壮大さを持ち合わせている。」(「チャーチニュース」1994年7月16日付)



# テレビゲームにふける習慣を克服し、

**我**が家の8人の子供たちは皆テレビゲームやコンピューターゲームが大好きです。好きなだけゲームをやらせたとすれば、皆がゲームに振り回されて生活することになるでしょう。家庭の平安を保ち、ゲームの時間を制限するために、我が家では次のようなことをしています。

●1週間に1度だけテレビゲームをしてもよい日を決める。近くのゲームソフトの店では、週に1日だけゲームソフトを割引してレンタルしています。そこで、その日は店に行ってゲームソフトを借り、ゲームをしてもよいことにしています。ただし、宿題が終わってほかにやるべきことがないのが条件です。

●ブラスバンドやボーイスカウトなどほかの活動に目を向けさせる。

●ハイキングやそりすべりなど家族で楽しめることをする。我が家は冬の野球好きで、8人の子供のうち6人は夏の間野球をします。ほかにも、家族でいろいろなスポーツや活動をするようにしています。何もせずにぶらぶらすることのないよう、体を動かすように努めています。

●遊んでもよいゲームの種類を決めておく。ゲームの内容をあらかじめ知ることがはむずかしいので、ゲームを家に借りてきてからふさわしくないものだったとわかるときもあります。そういうときはすぐに機械から取り出します。また、子供たちの遊ぶゲームがどんなものであるか把握するようにしています。7歳になる息子は、むずかしすぎてわからないゲームがあると機嫌が悪くなるので、年齢に適したゲームかどうかを確認するようにしています。

テレビゲームは手軽に楽しめるものです。この数週間、ひどい雪とあらしに見舞われ、摂氏マイナス40度の寒さが続いているため、子供たちは外で遊ぶことができずにいます。このよう

なときは、普段よりゲームについて少し大目に見てあげています。

コンピューターゲームに関しては、我が家には教育的なゲームしかありません。宿題をやり終えた後であれば、毎日少しの間、コンピューターゲームをしてもよいことにしています。  
メイン州ウエストパリス  
ミッシェル・ブレイク

## 自然に制限されました

テレビゲームやコンピューターゲームは、たちどころに、わくわくするようなチャレンジを与えてくれます。適度に使うならば、教育手段にもなり得ます。我が家では、割り当ての仕事や宿題が終わってさえいれば好きなだけ遊んでもよいことにしました。その代わりに、1時間いくらか決めてお金を払わせるのです。1時間あたりの値段は、お金を多く持っている年上の子供たちほど高くしました。

時間によってお金を払わなければならないことで、自然と遊ぶ時間が制限されたようです。ゲームでたまったお金は家族で出かけるときの費用の足しにしました。

デラウェア州ニューアーク  
ダグラス・F・テーパー

## 近所の子供たちを引き寄せる磁石

私たちが初めてコンピューターを手に入れた時、まるで磁石のように近所の子供たちを引き寄せてしまいました。ある男の子など、お昼を食べに家に帰って行ったかと思うと、10分もしないうちに帰って来て、夕飯に呼ばれるまでコンピューターにかじりついていたことがあり、それを見て、もう手に負えないと思いました。

そこで私は「一度に1時間以上コンピューターを使わないこと」というルールを作りました。6年たった今もそのルールは変わっていません。我が

家の子供たちはコンピューターゲームで遊ぶより多くの時間を、読書をしたり外で遊んだり宿題をしたりして過ごしています。

## 性格の変化

テレビゲームを買った当初は、悪いものではないと思っていました。末の息子は視覚から手先への反応が速いようで、とても上達していきました。でも、しばらくすると息子はそれ以外のものが何も目に入らなくなり、何時間でもゲームを続けたがるようになりました。外に出ることもほかの活動に参加することもいやがるようになり、それに加えて、性格まで変わってしまいました。とうとう私たちは、しばらくの間まったくゲームをさせないことにしました。それが去年の夏の初めでしたが、数週間すると息子の性格が元に戻ってきたのに気づきました。だんだんと穏やかになってきたのです。

それから半年間、ゲームをしまったままにしておきました。息子は夏の間じゅう、退屈でしかたないとこぼしていましたが、読書を勧めると、続き物の本を読んだようです。また、教会のバレーボール大会にも参加しました。こうして、息子は次第に外に出るようになり、さまざまなことに手をつけ始めました。ようやく私たちは、もう一度息子にゲームをさせてあげることにしました。ただし、時間制限付きです。ゲームをしてもよい時間は息子の生活態度や成績によって決めています。今のところ、この方法はうまくいっているようです。息子は今でも読書をしていますし、教会のバスケットボール大会にも参加しています。

ジョージア州ヘフシバ  
クラウディア・フォークル

## 知恵とルール

テレビゲームやコンピューターゲー

# おぼれないよう子供を助けるには



ムは、私たちが知恵を用いて自制しながら使うかぎりは問題になりませんし、楽しいものです。中には教育的な目的をもって制作されたゲームもあります。我が家では、家には決して戦闘ゲームを置かないというルールを設けています。どのような形であれ、家の中に暴力を持ち込まないようにし、スポーツや教育的なゲームだけを取り入れるようにしているのです。

もうひとつルールがあります。それは、子供たちが自分でコンピューターやゲームの時間をためるといことです。たとえば、宿題、もしくは読書を1時間すると、ゲームをする時間が15分得られるといった具合にしているのです。また、日曜日には決してゲームをしないという約束もあります。

我が家では、これらのルールはよく守られています。ほかの計画とのバランスもよく取れていると思います。  
アリゾナ州メサ  
スザンヌ・ジョーンズ

## どんなゲームかが重要

1年ほど前、末の息子が欲しかったゲームはその題からして暴力的なものでした。このゲームは、近くのスーパーマーケットでもでき、テレビゲームのソフトとしても店で売られていました。ある日、スーパーマーケットに行った際、どのようなゲームかを確かめようと、子供たちがそのゲームで遊んでいるのを肩越しに見てみました。そして、我が家では決してさせないと決めました。

息子にそのことを話すと、素直に受け入れてくれました。意見を押し付けようとはせず、ただ感じたままを話したのですが、息子は私がそう決めた訳をよくわかってくれたようです。今は、ほかのゲームを楽しんでいます。

子供たちがテレビゲームに耽溺するのを防ぐには、ゲームの内容を制限する必要があります。ゲームの内容はゲームをする時間と同じくらい重要です。息子が遊ぶゲームを自分自身で吟味していることをうれしく思います。  
ユタ州ソルトレークシティ

メアリーベス・キャンノン

## 時間を決める

子供たちはもう大人になりましたが、我が家には孫たちが遊ぶようにとテレビゲームやコンピューターゲームがあります。

ゲームを通して子供たちは、視覚から手先の運動への瞬発力を高めることができます。その意味では、ゲームは子供たちの能力に合ったものにすべきです。また、知識を増すのに役立つゲームを見つけるようにもしてきました。

家庭に持ち込まれる事柄には制限が必要です。暴力シーンのあるゲームも極力避けるべきです。

また、ゲームをする時間を制限する必要があります。これもわかってきました。放っておけば、孫たちは際限なくゲームを続けるでしょう。順番に遊ばなければならないことも教えています。

我が家でゲームをするときは、自分の家のルールとは違っていても、我が家のルールに従わなくてはいけないこともしっかり理解させています。

さらに、読書や家族みんなで遊ぶ遊び、外で遊ぶこと、そのほか少なくともふたり以上いないとできない活動など、ゲーム以外にも楽しむ方法があることを強調する必要があると思います。

アイダホ州ボイス  
サリー・シュリーブ

## まとめ

1. 規則や優先順位を決めておく。  
ゲーム時間を制限する、など。
2. ほかの活動を強調する。特に、家族で何かする。
3. ゲームの内容を制限する。——暴力的なゲームを避ける、など。
4. 教育的なゲームを活用する。  
('チャーチニュース' 1994年2月5日付)



# 再組織された大阪東ステークス部長会

去る7月31日、アジア北地域会長会会長デビッド・E・ソレンセン長老の管理下に開催された大阪東ステークス特別大会で、1994年3月よりステークス部長の責任を果たしてきた<sup>あくとまさあき</sup>芥正章兄弟が解任され、新たに<sup>くまのみつひろ</sup>熊野光広兄弟が召された。第一副ステークス部長には、<sup>やまうちたけひこ</sup>山内威彦兄弟（写真右）が第二副ステークス部長には、<sup>かしやまとしお</sup>柏山歳夫兄弟（写真左）が召され、その任に当たる。



## 「主はこたえてくださる」

大阪東ステークス部長  
熊野光広

**19**80年2月1日は、まったくの無神論者であった私が、大変劇的な出来事を知って、神のみもとに戻るための門をくぐった日、すなわち、バプテスマを受けた日です。

この記念すべき日に至るきっかけは、幼なじみの悪友ふたりに誘われて、初めて教会に出かけて行ったことでした。といっても、礼拝するためではなく、卓球をするためでした。私のふたりの友人は、すでにジョセフ・スミスの見神について宣教師から話を聞いていましたが、私は、それらについて何も聞いていませんでした。私は、そのことを気にはしていませんでしたが、何を話しているのか少し興味を持ちました。友人たちは、私にその内容を少し教えてくれ、私とともにひとつの計画を企てました。それは、宣教師がジョセフ・スミスのことを話した後に、彼らは私たちに信じるかどうかを尋ねるので、信じないと言って困らせ、彼らを少しからかうというものでした。

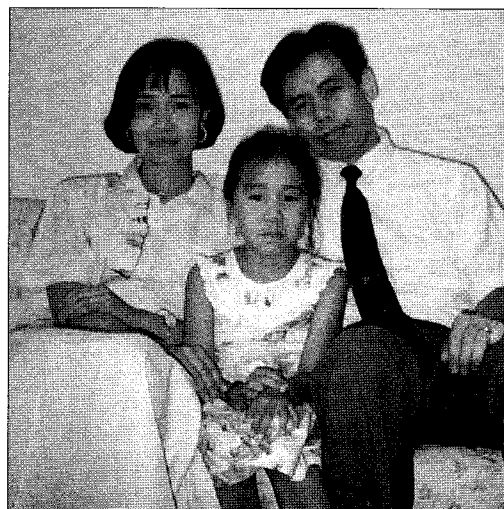
宣教師は、そんな計画を少しも知ら

ないまま、私たちに大変熱心に教えました。そして、私たちにこれを信じるかどうか尋ね始めました。友人たちは、計画どおり宣教師に信じられないと答えました。宣教師は、それでも困った顔をせず、やさしく真剣な表情で、私に「信じますか？」と尋ねました。私は、「はい、信じます」と、返事をしました。友人たちは、大変驚いていました。私は、ジョセフ・スミスについて宣教師から聞いているうちに、まるで、ジョセフ・スミスが神とその御子にまみえているその場にいるのではないかと思うほどの大変大きな感動と、この出来事が確かに真実であるという確信を抱いていたのです。こうして、まったくの無神論者であった私が、1週間後にバプテスマの儀式を受けたのです。忠実な宣教師の、日本人を改宗したいという強い望みに主がこたえられたひとつの出来事であったと思います。

半年後に、東京神殿が完成し、オープンハウスや献堂式が催されましたが、当時の私には、それがどんな意味を持つかまったく理解できませんでした。しかし、当時の高松支部の会員の皆さんからオープンハウスに行くように勧められ、私は訳もわからず東京神殿にひとりで出かけて行きました。そこで、とても美しい神殿を初めて実際に見て感動しました。中でもステンドグラス

の入っていた結び固めの部屋を見た時、この部屋で永遠の結婚をしようと心に決めました。そしてその6年後に、愛する<sup>たていたまこ</sup>立石妙子姉妹と永遠の結び固めの儀式を受けることができました。

また私は改宗当時から宣教師になりたいと思っていました。彼らから受けた大きな喜びを、ほかの人にも伝えたいと思っていたからです。ところが伝道前に、私は腎臓結石で最悪の場合は腎臓を摘出しなければならないほどの手術を受けることになりました。この時に、断食と祈りを捧げてくださった多くの会員の愛に感謝します。おかげ



熊野光広ステークス部長ご家族

## 家族の証

# 再び家族全員で 教会に集えるようになり

仙台伝道部盛岡地方部北上支部 佐々木隆一

で私は手術前に、確かに手術が無事成功するという確信を得ていました。もちろん手術は成功し、後に手術を行なってくださった先生は「君の信じている神様はほんとうにいるのかもね」と言ってくださいました。

また、私は入院中に聖典を学ぶじゅうぶんな時間を持つこともできて、伝道の準備ができました。こうして、改宗後1年半して伝道に出ることができました。主は、私の願いと、会員の皆さんの愛にこたえてくださったのです。

北海道での伝道の機会を通して、私は主の思いの一部がやっとわかり始めてきたと感じました。それは、「見よ、これわが業にしてわが栄光、すなわち人に不死不滅と永遠の生命とをもたらしなり」（モーセ1：39）にあるように人の救いに関する主の思いです。主は私たちの救いのために、私たちの祈りや思いに必ずこたえてくださいます。

ですから、私はいつも達成すべき目標を持つように心掛けています。この望みや目標が正しく、主のみこころにかなったものであるならば、必ず達成できます。いつも私をよく理解し助けてくれる妻、妻と同じ口調で励ましてくれる娘、そして大阪東ステーキ部の皆さんとともに家族や個人の救いのために地に足をしっかりとつけた信仰生活を送っていきたいと思います。ジョセフ・スミスは確かに神とその御子イエス・キリストとまみえ、生ける予言者として召された方であり、ハワード・W・ハンター大管長が現在の神様の生ける予言者であることを証します。<sup>あかし</sup>（くまの・みつひろ）

### 熊野光広ステーキ部長の紹介

1960年香川県高松市生まれ。19歳でバプテスマを受け、1982年9月から1984年3月まで札幌伝道部で専任宣教師として働く。1986年立石妙子姉妹と東京神殿にて結婚し、子供がひとりいる。大阪東ステーキ部摂津ワード部所属。これまで、ステーキ部伝道部長、ステーキ部幹部書記、副監督を歴任している。

1994年6月26日、私は愛するふたりの子供にバプテスマを施す機会に恵まれました。長男で中学1年の智崇と次男で小学1年の央知です。家族全員で教会に集えること、そして日々祈りを通して家族の信頼が深まってきたことを強く感じ、心から神様に感謝しています。

私が改宗したのは、5年前の4月でした。妻が先に改宗し、妻からの勧めにさほど抵抗もなく私はふたりの宣教師から福音を学び、バプテスマを受けました。按手礼で何か温かく、すがすがしいものを感じ、家族全員で満開の桜の下を歩いた思い出があります。そしてその後、父の死去、転職、単身赴任などの生活環境の変化のために、教会から遠のくようになりました。いわゆる夫婦そろっての「お休み会員」の状態でした。

そして3年が過ぎ、聖書もモルモン経も本棚の中で眠っていた今年、仙台伝道部の夫婦宣教師の藤竹長老、姉妹が私たち家族を訪ねてくださいました。最初おふたりと顔を合わせた時、私は今までの自分の行ないを恥じ、何か後ろめたいものが胸の中にあって、目を合わせることができませんでした。しかし、おふたりのやさしいまなざしと温かさが、私たちに再び教会へ集う勇気を与えてくれました。

特に印象深かったのは、おふたりが授かったみたまや証を夫婦ふたりでその感動を分かち合い、昨日のこのように目を輝かせて私たち家族に話してくださいました。そして訪問されるたびに「何かお手伝いすることはあ

りませんか?」と尋ねられ、切れなくなった包丁を研いでいただいたりして、いろいろとお世話になりました。

再び教会に集った時、教会員の皆さんに温かく迎えていただき、心休まる思いがしました。家に帰り子供たちとの話の中で、教会で聞いた福音や友達との話が次々と上がり、家族が共通の話題でだんらんを持てたのは大変久しぶりでした。子供たちの方から、来週も教会へ行こうと言われた時、再び教会に集ってほんとうによかったと感じました。

子供たちのバプテスマの予定が決まり、藤竹長老、姉妹から福音を学んでいる時、「佐々木兄弟、子供たちのバプテスマは、親であり神権者である「親権者」の手で施してください。そのためには、ご主人がアロン神権者となれるように、準備を進めましょう」とチャレンジが与えられました。正直、私は悩みました。藤竹長老、姉妹から一生懸命福音を学んでいる子供たちを見ていると、自分が親権者としてふさわしくないように見え、悔い改める日々を送りました。

神権者である私が、主の教えを守り、正しい生活をしなければ、子供たちのバプテスマを汚してしまう。そう思わずにはいられなかったのです。私はひとりお祈りをし、モルモン経を開いてみました。「それであるから私の兄弟らよ、ねがわくはあなたたちが悔改めを生ずる信仰を起し、神が自分たちを憐みたまうよう、神の御名によって祈り始めることを神が許したまわんことを。……家に居る時はあなたたちの家



族全体について朝も昼も晩も神に祈れ」(アルマ34:17-21)と教えたアルマの言葉が目に入ってきました。これは、主の与えられた試練であり、私の信仰を深めるように、主が導いてくださっているのだと考えることができましたのでした。

その日から私は、日々の生活の節目節目で祈りました。私は子供たちの健康と成長を感謝し、子供たちは両親の愛情と模範に感謝してくれました。そして1994年6月26日、家族全員が信仰のきずなで守られている中、ふたりの息子のバプテスマを迎えることができました。自分の家族を、みずからの手

で主のみもとへ導く、親権者としての責任と喜びを強く感じ、主の祝福と子供の愛情とを全身に受けながら、子供を抱き受け止めました。按手礼の後、中学1年の智崇が、聖霊の賜を授かったと証した時、私も子供が感じたものと同じ聖霊を感じる事ができました。

今、家族の目標は、永遠の結び固めを受けるため、神殿へ行く準備をしています。これからも、祈りと信仰のある生活をするよう、日々努めていきたいと思えます。そして、私たち家族を導いてくださいました多くの兄弟姉妹に感謝しています。(ささき・りゅういち)

## ふじ竹長老姉妹に 会って

佐々木央知

ふじ竹長老や姉妹が、初めて来てくれたのはまだ寒い雪のふっている2月でした。そして、ふじ竹長老や姉妹にジョセフ・スミスや教会、神様、イエス・キリストのことをいろいろおそわりました。イエス・キリストのビデオを見たり、キリストがどのようなおかなのか、学んだりしました。そして、私たちが、天のお父様のところへ帰れること、そのために、イエス・キリストが私たちのために、十字架にかかってくれたことを、教えてもらいました。

イエス様は、私たちのことをとって

も愛していることを、ふじ竹長老、姉妹から聞きました。バプテスマはもりおかで受けました。ぼくはお兄ちゃんの後になりました。とってもどきどきしました。その後のあかしも、どきどきしました。でも、ふじ竹長老や姉妹がにこにこして見ていてくれたので、少し上手に話せました。今は、プライマリーのクラスです。ふじ竹長老と姉妹は伝道でいなくなったけど、たくさんの兄弟、姉妹、友達がいます。教会に行くようになってから、食事の前においのりをするようになりました。そして、天のお父様が私たちを見まもっていることにかんしゃして、友達を大切に、なかよくできるようにと、毎日、おいのりしています。そしていつかまた、ふじ竹長老と姉妹に会えますようにと、おいのりします。(ささき・ひさし)

## 「太陽」という名の 贈り物を

佐々木智崇

ぼくが宣教師の藤竹長老、姉妹と最初に会ったのは、寒い冬の日、雪の中を自転車で来てくれました。そして毎週2回、福音について教えてもらい、6月26日にバプテスマを受けました。

その日は、聖さん会が終わってから盛岡支部の教会に行き、バプテスマを受けました。ぼくは緊張していましたが、その場にいた長老や教えてくれた宣教師がはげましてくれて、1回の失敗もなくできました。バプテスマを受けた時の感想は、真っ白のシーツを頭からかぶったような気持ちでした。あかしもうまく言いたいことが言えて、次の週には、父からアロン神権の執事の職にあん手聖任されました。

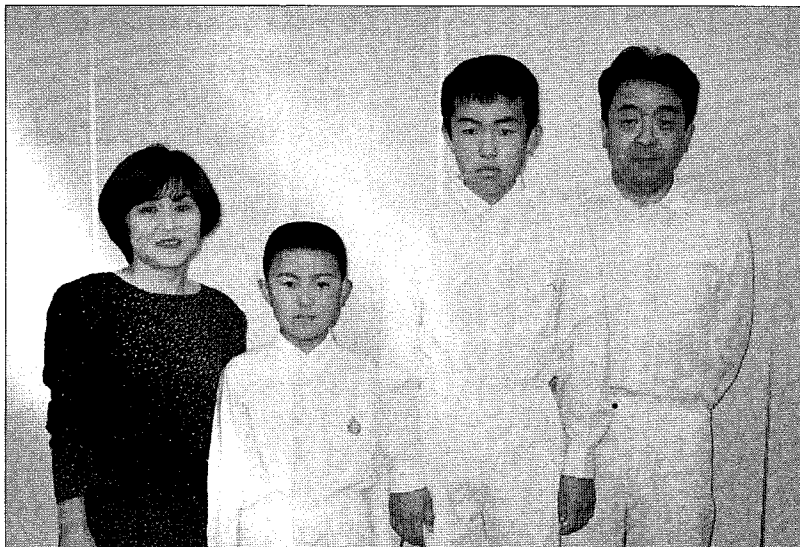
あん手聖任の感想は、みたまを感じることができて、すごくうれしかったです。いつでもみたまが心のブレーキを踏んでくれるので安心して生活できます。教会員のひとりになったこともうれしかったです。

ぼくは宣教師からモルモン経の本を5冊ももらいました。なんでもらったかという、この本をまだ知らない人に渡せるようにということです。そのためにいつも祈っています。

聖典は、いろいろな悩みや大きな壁と出会った時に、ぼくたちに力を与えてくれる太陽なのです。この太陽さえあれば、どんなに苦しくても乗り切ることができるでしょう。しかし、神様はすべてに平等なはずです。だからこのすばらしい太陽をまだ知らない人たちに教えてあげたいと思います。そして、この太陽をぼくに伝えてくれた藤竹長老、姉妹に感謝しています。

また、教会の友達や、宣教師たちとモルモン経について勉強し、信仰を高めていきたいと思えます。(ささき・ともたか)

バプテスマ会での佐々木ご家族



# バイク——主を知るきっかけ、 主が備えてくださった方法

東京北ステーキ部中野ワード部 港道正樹

## ◆事故で両足切断

私が19歳の時でした。ある朝早くバイクで走っていると、反対から来たタクシーが突然強引な右折をしてきました。私はそれを避けられず衝突してしまい、大きな事故になりました。飛ばされた直後はまだ意識がありましたが、病院に着いた時には、出血のせいか、あるいは安心したせいか、気を失ってしまいました。右足は回復不可能ということでひざの下で切断されました。私が「変だなあー」と気づいた時には、足がなくなっていたという感じでした。そのうえ内蔵も傷つき、腸の出血がありましたので、それが治るまで食事も取れませんでした。やっとそれらが治って普通病棟に移り、残っている左足の治療が始まりました。でも経過はあまりよくありませんでした。それから1カ月余りが過ぎた時、主治医の先生は次のように言いました。「皮膚移植をしながら、1年かかるか2年かかるかわからないが、少しずつ治していきますか。それとも切断して早く治しますか。」

私は選択を迫られました。また、切断しない場合、治る確率は非常に低いことも知らされました。私は、もし確実に治るのなら何年かかっても頑張ろうと考えましたが、当時は高熱と痛みでとても苦しんでいましたので、治るかどうかかわからない方法よりは、むしろ確実に早く治る切断の方法を選ばざるを得ませんでした。こうして私の両足はなくなりました。

手術後、傷口が治ってきますと、今度は両足に義足をつけて歩くりハビリ訓練が始まりました。そして入院して半年ほどで退院することになりました。

## ◆友人から宣教師を紹介されて

私は大学の体育の授業で、卓球を選択していました。その時知り合ったひとりの友人が、ある日私の病室へ見舞いに来てくれました。ほかの友達をよく漫画や雑誌を持ってきましたが、彼は一風変わった本を持って来ました。それは「モルモン経」という本でした。私は、その本をちょっと開いて見ましたが、まったく何のことかわからなかったのです。そのままほうっておきました。私は彼とはそんなに親しい間柄ではないと思っていたのですが、彼の方は友達のような感覚で私に接してきました。

退院してからも彼はほとんど毎日のようにやって来ました。ある時彼は真剣になって、「今のおまえにぜひ紹介したい人がいる。宣教師に会ってくれ」と言いました。以前、宣教師が戸別訪問で、実家とアパートに1回ずつやって来たことはありましたが、私は宗教には興味もなく、門前払いしたことがありました。当時の私には、宗教心がまったくありませんでした。「神様を信じる人はどうぞ信じてください。でも、私には関係ありません」という感じでした。私はあまり外に出る機会もなく、暇を持て余していたので、その友達の誘いを「会ってもいいよ」と軽く受け入れ、宣教師に会うことにしました。その時はまだ、「福音の話を聞こう」という気持ちは全然ありませんでした。

初めて宣教師が来た時は、お互いに写真を見せ合いながら自己紹介などをして過ごしましたが、やがて福音の紹介を受けるようになりました。その後2、3回、福音についてのお話を聞いたのですが興味がわいてきませんでした。

たので、「これでは相手に失礼になる」と思い、宣教師には友人から断わってもらいました。

そんな訳でしばらく宣教師とは接しませんでした。その友人はなかなか粘り強い人なのか、数カ月後またやって来て、「今度は、もっと明るくて楽しい人だからもう一度会ってくれないか」と私を誘いました。私も「じゃあ、ちょっと会ってみようか」という気持ちになり、宣教師に会いました。最初の宣教師は、おとなしい感じの人でしたので、私は性格上、もっとにぎやかな人の方がつき合いやすかったと感じていました。その点今度の宣教師は、友人が言ったように、確かにふたりとも楽しい宣教師でした。そして私も、「また、お話を聞いてみようか」という気持ちになりました。と言いますのは、私も私の周りの人も親戚も、教会やキリスト教について、ほとんど何も知りませんでした。それでも神様という名前は知っていましたが、「そんなものはいない」と思っていました。でももし神様がほんとうにいたら、「それは絶対にいいなあ」とは思っていました。

前の宣教師の時は、モルモン経もほとんど読みませんでしたし、宣教師のお話も生半可に聞いていましたが、今度は「ほんとうか、うそか試してみよう」という気持ちで聞くことにしました。モルモン経も読んでみました。すると以前読んだ時よりは、書いてあることが少しずつわかってくるように感じました。まだほんとうかどうかはわかりませんでした。ただ内容を自分でもくみ取れるようになってきました。

そうして宣教師と会い、福音について学んでいきますと、やがてバプテスマのチャレンジを受けることになりま





した。しかし私自身、まだ確信を得ている状態ではありませんでしたし、また、バプテスマに対する恐怖心もありましたので、とても悩みました。バプテスマは水の中に立って、それから沈められます。でも、私は義足ですから、水に入ることができないのです。それで「自分の場合どうやって受けるんだろうか」とか、結構周りの目をまだ気にしていたころでしたので、「あまり自分の姿を見られたくない」という気持ちも強く、受けるかどうか大いに迷っていました。ですから宣教師には、「まあ、またいつかその気になったら受けますよ」と話していました。しかし、宣教師はバプテスマの日を決め、私にチャレンジしてきました。私もとうとう、その日にバプテスマを受けることにしました。バプテスマを受ける時は、ひとりの宣教師が水の中でひざを曲げて、いすの代わりになってくれました。私はその上に座り、福音を伝えてくれた友人が儀式を施してくれました。

#### ◆監督からの伝道のチャレンジ

こうして教会員になって学生生活を送っていましたが、大学3年の時、将来のことを考え、「アメリカへ留学し、インテリア関係の勉強をしようか」と考えるようになりました。そしてその計画について監督に相談しましたところ、監督は、「伝道については、どう考えていますか」と言いました。当時私は、「足が不自由になったので、自転車にも乗れないし、こんな体で一体どのような伝道ができるのだろう」と思っていました。また、「宣教師になれなくても、友達に教会のことを紹介したり、宣教師のお手伝いをすればよい」と自分で考えていました。しかし、伝道はとてもすばらしいことだとも思っていましたので、監督から伝道のことを言われた時とても悩みました。そこで、何人かの指導者や友達にも相談してみました。しかし皆さんの意見は一致していました。答えは、「祈ってみてください」でした。そこで私も、真剣にお祈りをすることにしました。

お祈りをしている時、私はこんなことを感じました。「今の自分の考えは、もしかしたらほんとうは神様が望んで

いることではなく、ただ単に自分の都合のいいように解釈しているだけではないのか。自分は、事故でほんとうは死んでいたのかもしれない。確かに事故の時、心臓も止まった。でも今生きている。これは生かされていることではないだろうか。もし神様に生かされているのなら、まだまだ何かすべきことがあるのではないだろうか。自分自身は弱者だが、神様が望まれるのならたとえ命でも捧げよう。」そしてその日以来、私はそのように考えるようになりました。そこで、はたして自分のような者が宣教師として召されるのかどうか不安はありましたが、宣教師になるための「宣教師推薦状」だけは提出してみることにしました。そして書類を用意し面接も受けました。しかしその後も、「自分は自転車には乗れない。そんな場合、車で伝道するアメリカに召されるのだろうか」と思ったりもしました。

やがてソルトレークの伝道管理部から返事が来ました。その手紙には、伝道地の欄に、「アメリカ」ではなく、「日本岡山伝道部」と書いてありました。これには驚きました。「自転車に乗れない者が、なぜ日本に召されたのだろう。そうだ、自分は町に出て伝道するのではなく、伝道本部で事務の手伝いをするのだ。本部で秘書のような内勤の仕事をする宣教師なのだ」と勝手に解釈しました。親は、宣教師になることに反対はしませんでした。悪いことではないので同意してくれました。

伝道資金は、当時乗っていた車を処分すればなんとかなりました。しかし、

問題は学校でした。私が通っていた大学はミッション系でない私立大学で、それまで宗教関係で休学を許可した前例がありませんでした。学務関係の方は、「あと1年待って、卒業してから考えても遅くはないんじゃないですか」と言いました。確かに、休学するとお金が高くつきます。しかし自分としては、すでに神様から答えをいただいていたので、あくまでも「休学」を主張しました。しかし許可はなかなか出ませんでした。とうとうJMTC(日本宣教師訓練センター)に入る日が来てしまいましたが、まだ許可は出ていませんでした。私はちょっとだけ不安でしたが、とにかくJMTCに入りました。そしてJMTC最後の準備の日に、自宅へ電話を入れてみますと、「休学の許可が届いている」と知らされました。とてもうれしかったです。

#### ◆バイクを使っでの伝道

そしていよいよ岡山へ向かいました。でも、自分はどのようにやって伝道するのかわかりませんでした。岡山伝道部に着きオリエンテーションを修了した後で、伝道部長の面接を受けました。彼は「日本では車の伝道は認められないが、バイクなら許可されるかもしれない」とおっしゃいました。そして翌日、鳥取県米子市に行くように言われました。私は、これからどうやって伝道すればよいのか、とても心配でしたが、とりあえず指示された任地へ向かいました。伝道地には同僚の宣教師が待っていました。いよいよ町に出て伝道することになりました。

私が「どのようにして町に出ようか」と困っていると、同僚が自転車の後ろに乗るように言いました。そうして町に向かいましたが、すぐ警察から注意され、それはできなくなりました。そこで私は安いバイクを探しました。さいわいピザ屋さんで、使っていないような三輪のバイクを見つけましたので、店長さんに「譲ってもらえないでしょうか」と相談してみました。すると3万円で譲ってくださいました。でもバイクはとても古くて、やっと走れるかどうかという頼りない状態でした。

私はそれに乗って伝道することになりましたが、今度は両足がないので、以前とは違い体だけでバランスを取って乗らなければならず、最初は大変でした。周りの人からも、「危ないよ」と言われましたが、何回か転倒した後、なんとか乗れるようになりました。こうしてバイクとの生活が始まりました。バイクは私の足ですので転任する時はいつも新しい任地へ送りました。

#### ◆導かれ祝福された宣教師生活

ある時、姉妹宣教師が病気になる、伝道できない状態になったことがありました。しかし彼女はとても伝道が好きな姉妹でした。彼女は早く元気になって、すぐにでも伝道したいという気持ちでいっぱいでした。そこで私たちは彼女に病気を癒す儀式を行なうことにしました。儀式を執り行なっている時、私は自分の体が熱くなって、何か自分の体から特別な力が彼女に注がれているように感じました。そうして儀式は終わりました。彼女は今までの様子からは考えられないほど元気になりました。私はその時、確かに神様の力が彼女に注がれたことを感じました。

私が、伝道の経験を通して学んだことは愛です。特に同僚に対する愛です。その愛が自分には欠けていることを知りました。伝道の召しも終わりに近づいていたある時、自分は伝道することばかりに気を取られ、同僚を愛することを忘れていたことに気がつきました。それからは、まず同僚を愛するように努めました。その結果、伝道活動もよくできるようになりました。

伝道している時、いろんな場面で、神様が導いてくださっていることを感じました。福音を述べ伝えている時、不思議によい知恵がわいてくることがありました。また、バイクで走っている時、危険な交通状況からたびたび守っていただいたこともありました。バイクは古いものでしたので、2年間耐えられるかどうか心配でしたが、不思議と持ちこたえました。そして伝道期間が終わって帰る時、そのバイクを持って帰ったのですが、今度は幾日もたたないうちに走らなくなってしまいました。あのバイクは伝道するためだけに用意されていたようでした。

#### ◆体の障害と引き換えに

聖書のヨハネによる福音書第9章3節には「本人が罪を犯したのでもなく、また、その両親が犯したのでもない。ただ神のみわざが、彼の上に現れるためである」と書かれています。私は事故に遭って以来ずっと「どうして自分がこのような障害を経験しなければならぬのか」と疑問に思っていました。J.M.T.C.でこの聖句を知り、すぐに「これは自分のことだ」と思いました。それで神様ののみ業を現わすことができるように伝道してみました。

伝道に出る前は、あまり考えませんでした。伝道中よく考えたことがあります。それは、何か困難なことに出会った時、ちょっとした迫害のようなことや病気、苦しみ、痛みを経験した時、いつも心の支えになったことは、

「イエス・キリストの贖い<sup>あがな</sup>について考えてみる」ことでした。そうする時、私の苦しみはもうほんとうに小さくなっていきました。イエス様は私たちのために、もっともっと想像を絶する苦しみを体験されましたので、そんな時私は主の愛をさらに強く感じました。

事故の後、改宗する以前の私は、すべてにおいてあまり肯定的な考えを持つことはありませんでした。「事故の前はこれができるのに、今はもうできない」とか、事故の時「もし、あぁなっていなかったら、こんなことにはならなかった」とか、そんな考えがいつもわいてきました。何も積極的な考えが浮かんできませんでした。しかしこの福音を通して、考えが前向きに変わってきました。私が事故に遭ったことを知った人の中には「かわいそうだね」と言う人もいますが、でも今の自分には大きな祝福となっています。と言いますのは、「もし事故に遭わなかったら、多分この福音を知る機会はなかった」からです。そういう意味でもとても神様に感謝しています。祝福を受ける時は、必ず犠牲を伴います。自分の場合、「体の障害と引き換えに初めてこのほんとうの幸せを見いだすことができた」と思っています。

私は、この福音を伝えてくれた友人に心から感謝しています。イエスがキリストであり、私たちの贖い主であること、またこの教会がまことの教会であることを証<sup>あかし</sup>いたします。(みなとみち・まさき 長老定員会第一副会長)



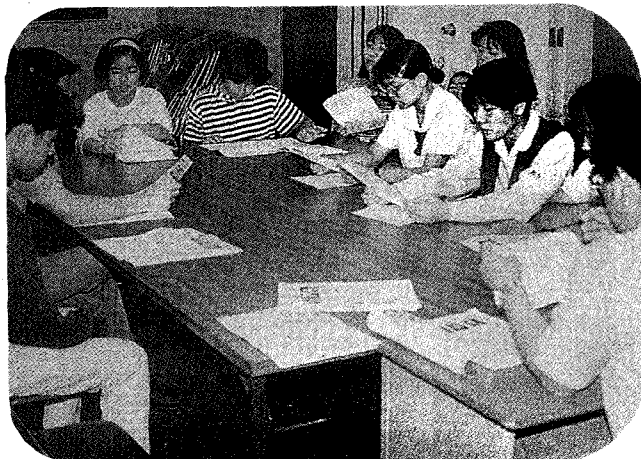
バイクを使って伝道中の港道兄弟



# あげるヨ!

## 宜野湾市の子供サークル

# 母さんの「伝記」



「母の記録」作りに取り組む子供たち=宜野湾市内の教会で

# わが子が取材、人生づづる

## 意外な一面再発見も

母の日を前に、宜野湾市の子供サークルが「母の記録」作りに初挑戦。取材ノートを作り、お母さんに突撃インタビューを敢行した。ペンを持ち、取材をする「記者」ぶじつへの意気込みは、母の子供時代から青春時代、結婚、出産、子育ての母の語。お母さんも子供たちと一緒の「僕」の語り風期があった。一冊活字活躍した「母の記録」は、八日の母の日にカーネーションを「再発見」と子供たち。取材ノートを基にまとめた「母の伝記」は、八日の母の日にカーネーションで「母の記録」をお母さんに贈られる。

母の日の記録作りは、宜野湾市内の教会で毎週学習会を開いている末日聖徒イエス・キリスト教会子供サークル(小、中、高校生約二十人)が「お金のからまない、世界で二つしかない母の日のプレゼント」と考え、取り組んだ。かきとる取材ノート作りには、元新聞記者の金城寛さん(36)が記者時代の経験を生かして質問項目を作成。子供たちが項目に沿って質問すれば、母親像が浮かび上がるよう工夫した。

取材後、感想をつづった子供たちは「一日も休まず働く大変な毎日なのに、母は私たちがいるから幸せという。そんな母を不思議と同時に、誇りに思っ(久手

名前、旧姓、両親の名、誕生のころから子供時代、家族の思い出、学生時代、そして結婚。インタビュア攻めに最初は照れて逃げ回った母親たちも、子供たちの熱意に根負け。最初は照れていたのに、しゃべり出したら止まらなくなった(大嶺優樹さん(山内中三年)のもの多かったようだ。取材は二時間から四時間掛かり。子供とこんなに話したことがなかったとお母さんたちもわが子との対話を楽しく絶好の機会に。そ

## 新聞からの話題 子らの心にその先祖を

沖繩那覇ステーク部普天間ワード部  
金城寛

ワード部の青少年と一緒に、それぞれの両親の記録を作成する機会がありました。彼らはすでに「私の母の記録」を完成し、現在は「私の父の記録」の作成に取り組んでいます。これらの記録は、両親の誕生から幼少期、青年期、そして私たちの両親となった現在に至るまでの出来事について順次質問し、その答えをまとめたものです。何か大変そうに聞こえるかもしれませんが、やってみるとそれほどむずかしいものではなく、とても楽し

い経験でした。十数年あるいはそれ以上も一緒に暮らしてきた自分の両親なのに、よくよく話を聞いてみると、その人生には私たちのまったく知らないドラマが隠されていたのです。それはある人にとっては、部活動に熱中する若き日の母であり、互いに心を引かれ合う恋愛中の両親の姿であり、また彼らが想像したこともないような大きな大きな親の愛でした。そしてそれらが、悲惨な戦争あるいはその後の

復興期に起きたさまざまな出来事を舞台にして、まさにドラマを展開していたのです。話を聞けば聞くほど心が引き付けられ、同時に、両親に対する理解と愛がさらに深まっていきました。最初は恥ずかしがってあまり口を開かなかった両親も、だんだん得意になり、饒舌(じょうぜつ)になってきました。そして話の中の両親の姿が、まるで古ぼけた写真から飛び出して動きだしたように生き生きとしてきたのです。単なる親で

はなく、幼いころから一緒に遊んだ友達のようにさえ感じられました。

教義と聖約第2章には次のように記されています。「見よ、主の大いなるおそるべき日の来る前に、予言者エライジャの手によりて、われ神権を汝に顕さん。彼は先祖になされし約束を子らの心に植え、子らの心にその先祖を思わしめん。もし然らずば、主の来る時、全地はことごとく荒れ廃れん。」

この聖句によると、主は私たちの心

に先祖を思う気持ちを起こさせることになっています。私たちは確かにこれまでも先祖について思いをはせる機会がありました。しかし今回の経験を通して、先祖を思う気持ちは、彼らをもっとよく知ることによってさらに強められるのだと実感しました。そして両親以外の先祖についても詳しく知りたいと思うようになってきたのです。

私たちのワード部の青少年のほとんどは改宗者です。先祖の記録だけでな

く系図にさえ、まだわずかしか手をつけていません。これを機に先祖を思う気持ちをさらに高め、先祖の記録や系図の探求につなげていきたいと思いません。

今年には国際家族年。また地域会長会も昨年来、両親の記録を作成するよう勧めています。それらを通してこのようなすばらしい機会を与えてくださった指導者のかたがたに心から感謝しています。(きんじょう・ひろし 監督)

## 神様からもらった力

### 「わんぱく相撲小山場所」に出場して

1994年6月5日、栃木県小山市の小山第一小学校の体育館で「第10回わんぱく相撲小山場所」が開催されました。大会には447人の豆力士が熱戦を繰り広げ、個人戦男子5年生の部で、宇都宮地方部小山支部の坂本 洵兄弟がみごと優勝し横綱となりました。そして7月31日、両国国技館で行なわれた全国大会に出場し、2回戦まで進出しました。

東京北伝道部宇都宮地方部小山支部  
坂本 洵

**ぼ**くは本番に弱くて、いつもおしいところで負けていました。

去年の小山場所ではベスト8に残っても小結で止まってしまい、それ以上相撲が取れなかったのが、今年も途中で負けたまま終わってしまうのがこわくてたまりませんでした。

朝、会場に行く途中歩きながら、どうしたらいいですか、と祈っていると、だれかに「自由にやりなさい」と言われた気がしました。

あっ、そうか、と思いながら会場に入ると、友達の顔が見えたときに、緊張感がどこかに行っていました。すると、これならやれるかもしれない、強い気持ちがわいてきました。

個人戦の1回戦は不戦勝でした。ベスト8に残った後、去年ぼくが負けた

人とぶつかりました。こわくなって、体育館のうらで、自信が出るようにひとりでお祈りしました。

次の試合は、小さい体の人だったので、動きがすばやくて、苦戦して土俵ぎわまで追いつめられて、押されて出てしまいました。あ、負けてしまったな、と思ったとたん、審判が「先ほどの試合は、頭がおなかについて大変危険なため、ルール違反となり、取り直しといたします」と言いました。ほっとして取り直して勝ちました。

そして決勝戦になりましたが、この試合に勝つと、国技館に行かなければならぬので、わざと負けて、大関になった方がましだと一瞬思いました。なぜかという、去年いここが国技館に行つた時、強い人たちと戦うつらさを見たからです。

でも、神様がくれたチャンスを、そ

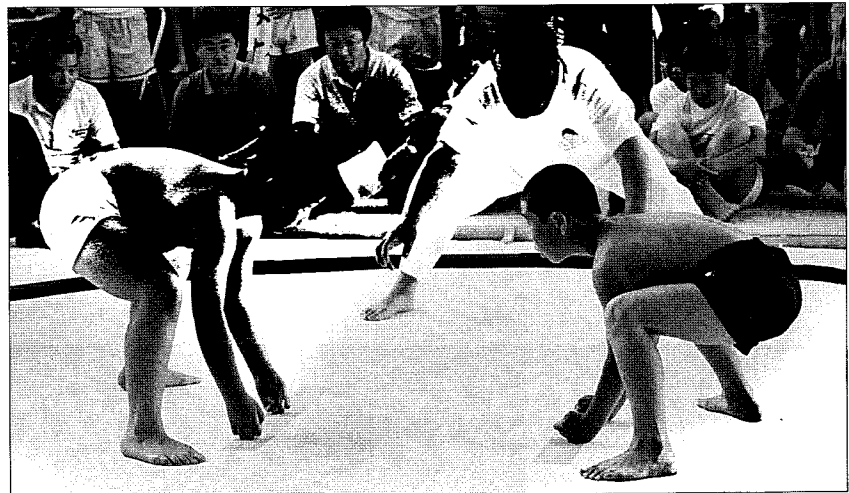
んなつまらないことでむだにしたいかと思っていて、本気を出して相撲を取りました。

相手は足をかかえこんで技をしかけてきました。その時たおれそうになったけれど、ふんばって相手の手を思いつきはたきました。すると、手が



(上) 坂本洵兄弟とご家族

(下) 「わんぱく相撲小山場所」での坂本兄弟(写真左)





離れてスキができたので、スキをついで押していったら勝ちました。

みんなの応援が20パーセントと、自分の力が50パーセント、そして残りの30パーセントが神様の助けだとほくは思いました。

ほしい物があつた時お祈りしても、

願いがかなわなかったのは、この時のために、神様が祝福をためておいてくれたのだと感じました。

みんなにほくの力を認めてもらうチャンスができてうれしかったです。神様からもらった力をむだにしないで、残さず使いきったことが恩返しになっ

たと思います。

家に帰ってみんなで感謝のお祈りをした時、みたまを感じました。

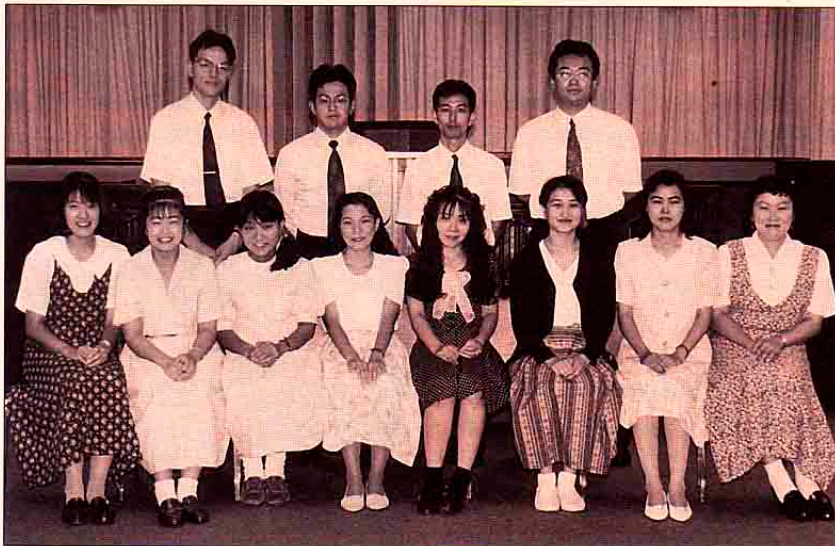
このことを通して、天のお父さまはほくのことは見ていてくださる、ということを知りました。(さかもと・じゅん)

JMTC

ローカル

## 9月に召された専任宣教師

第181期生 12人



後列左から1-4, 前列左から5-12

〈名前〉	〈出身地〉
1. 三浦 徳美	町田S/町田第2W
2. 神吉 直宙	札幌S/札幌東W
3. 飯田 博則	我孫子S/つくばW
4. 渡辺 一	東京東S/小岩W
5. 水野まりい	横浜S/上大岡W
6. 松本 典子	名古屋M/三重D/鈴鹿B
7. 藤田 早苗	名古屋西S/御器所W
8. 梅原 育子	神戸S/北六甲B
9. 多田みちる	大阪東S/茨木第2W
10. 宮崎久美子	福岡S/北九州W
11. 上地 明香	沖縄那覇S/糸満B
12. 角畑 浩美	福岡S/中津B

〈伝道地〉
岡山伝道部
神戸伝道部
岡山伝道部
福岡伝道部
岡山伝道部
大阪伝道部
仙台伝道部
東京南伝道部
岡山伝道部
仙台伝道部
東京南伝道部
東京北伝道部

M: 伝道部, S: ステーク部, D: 地方部, W: ワード部, B: 支部

お知らせ

## 役員の変動

1994年8月3日から9月2日までに管理本部会員統計記録課に通知のあった役員の変動(敬称略)

- 大阪東ステーク部  
新ステーク部長: 熊野光広  
(前任者: 芥正章)
- 札幌ステーク部士別支部  
新支部長: 阿部卓  
(前任者: 中嶋孝一)
- 名古屋ステーク部野並支部  
新支部長: 佐藤慎太郎  
(前任者: 市橋弘彦)
- 大阪東ステーク部茨木第1ワード部  
新監督: 中谷佳史  
(前任者: 岩本正憲)
- 神戸ステーク部加古川ワード部  
新監督: 納庄昌昭  
(前任者: 釜石一朝)
- 岡山伝道部松山地方部新居浜支部  
新支部長: 真鍋道人  
(前任者: 藤谷四郎)
- 福岡ステーク部佐賀支部  
新支部長: 山口徳幸  
(前任者: 石田智通)
- 福岡ステーク部前原支部  
新支部長: 高崎昌一  
(前任者: 小部啓一)
- 福岡伝道部鹿児島地方部都城支部  
新支部長: 森山駿一  
(前任者: 永吉幸一郎)
- 福岡伝道部熊本地方部八代支部  
新支部長: 福島光利  
(前任者: 一美豊)
- 沖縄那覇ステーク部沖縄ワード部  
新監督: 金城善恒  
(前任者: 久志助男)





●イスラエルの荒廃を嘆くエレミヤ レンブラント・ハルメンス・ファン・レイン（1606-1669）画。

「イスラエルの民が偶像崇拝と不道徳を悔い改めなければ、エルサレムは破壊されるであろう。」40年以上にわたり、エレミヤはそう警告し続けた。エレミヤの予言は成就した。カルデヤ人（バビロニア人）が町を包囲し、民を捕らえたのである。エレミヤはエルサレムについて、悲しみを込めてこう記している。「その敵は栄えている。そのとがが多いので、主がこれを悩まされたからである。その幼な子たちは捕われて、あだの前に行った。」（哀歌1：5） Courtesy of Rijksmuseum Van Oudheden





✕ ルキゼデク神権の力によって、「エンダウメントを受けたふさわしい男性は、この世から永遠にわたって自分の子孫を管理するのです。」（ボイド・K・パッカー『すべての長老、そしてすべての女性が知っておくべきこと——神権政体の原則に関する手引き』本誌p.14参照）